

DF241
E2



0029510-000

DF241-E2

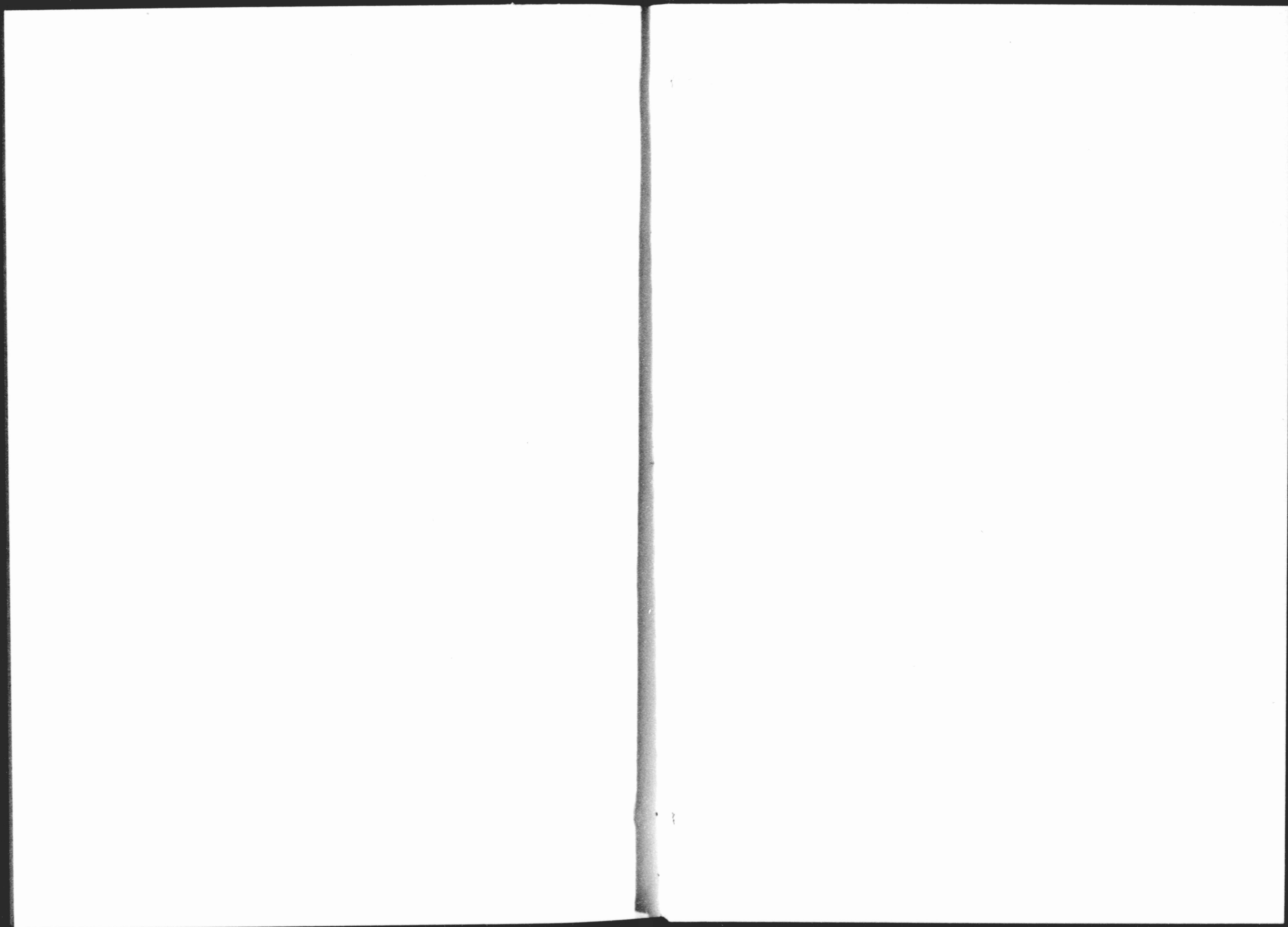
中国の金融制度

日本銀行調査局・〔編〕

日本銀行

1948. 3

ADI



2325-14

336

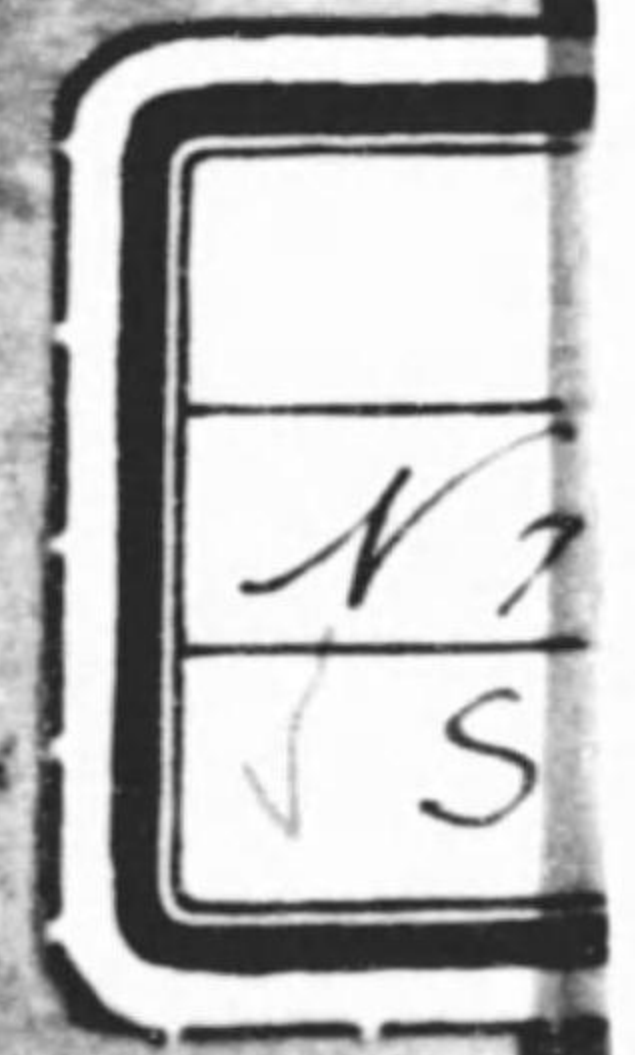
調外特第三號(行内限)

昭和二十三年三月

中國の金融制度

(各國金融制度調査その四)

日本銀行調査局



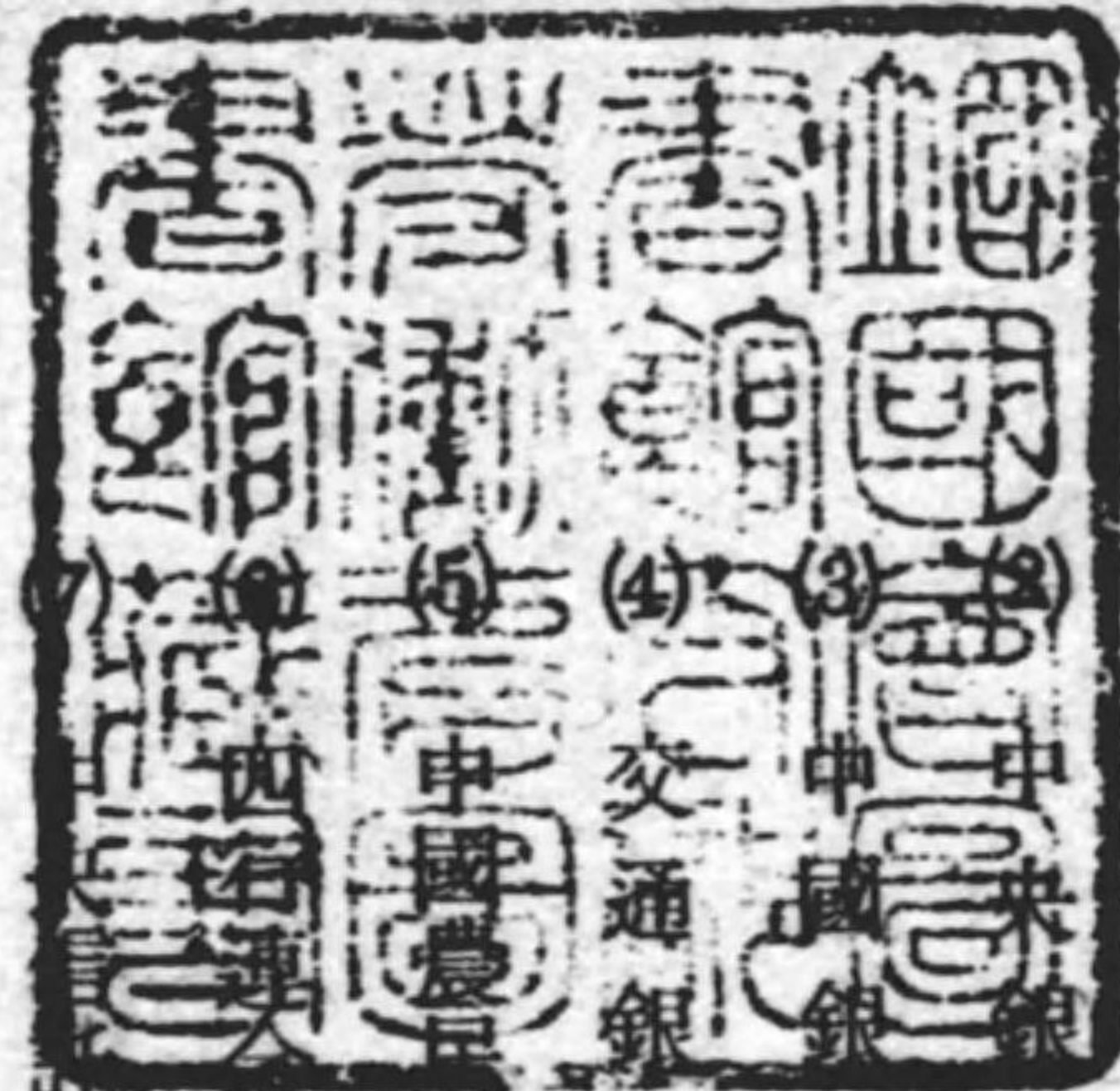
336
29

寄贈

DF241
E2

目次

一、沿革.....	一
二、中國側金融機關.....	六
(一) 政府系金融機關.....	六
(1) 概說.....	六
中央銀行.....	九
交通銀行.....	八
中國農民銀行.....	三
中央銀行辦事處總處.....	五
中央銀行辦事處.....	三
(2) 郵政儲金滙業局.....	六
(3) 中國建設銀公司.....	三
(4) 金融管理局.....	四
(5) 特殊銀行.....	三
(6) 特別銀行.....	三



89W68232

(2) 省銀行	三
(3) 縣銀行	六
(三) 華商銀行	六
(1) 概説	六
(2) 三三四	六
(1) 大四行と小四行	七
(ロ) 南三行	七
(ハ) 北四行	七
(3) 銀行業同業公會と連合準備委員會	七
(4) 戦後の動き	七
(四) 錢莊	七
(1) 錢莊業	七
(2) 錢兌業	七
(3) 戦時中の動き	七
(4) 戦後の動き	七
(五) その他の金融機關	七
(1) 保険業	七



(2) 合作社と合作金庫	三
(3) 典當	七
三、舊淪陷區における金融機關	七
(一) 戦時中の動き	七
(二) 戦後の整理	五
四、外國系銀行	六
五、結論	七
(附 録)	
戦後の上海銀行業一覽	六三

一、沿革

中國金融制度の發展は百年に近い歴史を有しているのであるが、その近代化はここ三、四十年のことである。すなわち舊式勢力の殘存と新式勢力の擡頭とにより、いわゆる半封建的經濟組織と半植民地的資本主義的經濟體系との交錯裡にある中國独自の社會的要請に應じつつ發展して來たのである。

阿片戰爭による南京條約の結果として、一八四三年上海を始め寧波、廈門、福州、廣州の五港が正式に開港されて以來、中國經濟は世界經濟の渦中に投ぜられ、中國の内外商取引は幅轄化して、從來舊式金融機關として發達して來た爲替送金を取扱う票號（註）並に商業金融を代表する錢莊の業務もいよいよ多忙を極めたのである。他方東西列強は對華貿易の進展に適應し、且つは對華經濟侵略の實行を有利ならしめんとして、相繼いで上海その他の主要貿易都市に銀行を設置し、その尨大な資本と健全な經營組織の下に信用を確保し、半植民地銀行ともいふべき中國經濟支配の中心機關として活動せしめ、その存在は中國金融機關特に近代華商銀行の發展上脅威であると共に障害であつた。

（註）票號は山西商人の資本を中核とし、二百年以上の長期にわたり存在して來た舊式金融機關であつて、外國系銀行の中國進出以前に、すでに相當程度の地位を中國金融界に占めていた。その最盛期には各通商都市至る處に發達したのであつて、十九世紀においては組合を組織し、全國の爲替業務を壟斷し、中央並に地方政府のために國庫金收支の取扱、預金貸付、紙幣發行等の業務を營んで來たが、清朝の倒壊と共に多額の貸付金を失ひ多くはその跡を絶つに至つた。

一八九七年に至り中國は初めて自己資本による新式銀行として中國通商銀行を設立した。同行は招商局及び漢治萍鐵廠の創立者である總理衙門給事（日本の内閣書記官長に相當する）盛宣懷が戶部（財政部の前身）から銀百萬兩を借入れ、英國系滙豐銀行（一名香港上海銀行）章程に倣つて株式組織として上海に創業した私立商業銀行であつて、

その目的はあくまでも中國經濟界の金融幣制を整理し、併せて外國系銀行の壟斷しつつある金融利權の挽回と外國貿易の發展とを企圖したものであつた。その特權は貨幣鑄造、紙幣發行、政府公金の全面的取扱等であり、各省首都、開港場の外、歐米まで支店を設置しようとするものであつたが、負擔加重のため、十分の目的を達し得なかつた。

このように中國新式銀行業がまだ萌芽時代にあるとき、外國系銀行はすでに中國に深く浸潤し、英國を始めドイツ、フランス、ロシア及び日本等諸國の大銀行が中國内に店舗を設置していたのであつて、一八七三年までにすでに上海一市だけに設立された外國系銀行でも實に十二行の多數に上つた。

戶部は私立銀行である中國通商銀行の設立に刺激され、一九〇四年八月二十九日最初の國立中央銀行として金融の總攬と幣制の統一普及とを使命とする戶部銀行を資本金四百萬兩をもつて北京に成立させた。同行は總行を始め、上海、漢口、濟南、天津等の重要都市に設置された各支行においても紙幣發行權を有し、その紙幣は政府に對する税金の支拂、政府と民間との取引等に強制的に使用されたため全國的に相當の流通額を見た。一九〇八年七月一日戶部が度支部に改組したのを機會に同行は度支部銀行更に大清銀行と改名され、資本金も一千萬兩に増資し、優秀な基礎の下に紙幣發行の獨占權をも掌握すると共に、國庫事務を有する中央銀行の機能も賦與され堅實な進歩を遂げて來た。しかし一九一一年の辛亥革命の勃發を契機として銀行資産は沒收または強奪される一方、預金の引出、不換紙幣の濫發等により漸次業態は悪化し、遂にはその機構も解體される運命を辿つたが、一九一二年同行上海支店は中國銀行として更生し、一應國家銀行としての基礎が樹立されることになつた。

一九〇七年には交通、浙江興業の兩行、更に一九〇八年には四明、浙江實業の兩行が成立する等新式銀行の設立も漸次増加し、その勢力も逐日膨脹して行つたのである。しかしこの時代における華商銀行勢力は資本の薄弱、組織の

不安定、業務範圍の狭小という状態にあつたため、その金融市場に占める地位は自然錢莊にも及ばなかつた。その後辛亥革命による政治的轉換に基き、一九二一—一六年の間に資本の少額と經營組織の原始的形態にあつた錢莊、票號の半數は相繼いで閉鎖したのに比し、新式銀行業の勃興は漸く顯著で、中國、江蘇、聚興誠、鹽業、廣東、上海商業儲蓄等の諸行はすべてその頃の創立にかかるといふのである。このような華商銀行の進出にも拘わらず金融界は資本運營の關係から依然外國系銀行の君臨に従い、通貨も外國系銀行の自由發行に委ねられたから、華商銀行の活動餘地は極めて制限されていた。しかし第一次世界大戰後の一九二二年頃より中國は漸次金融市場において反擊體制をとり、同時に民族工業の勃興に投資金の流動が増加した上、北京政府の公債濫發と巨額借款とによる尨大な利潤に誘致されて、數十に上る銀行が新設された。また一九二七—三一年の間には次のような理由で商業銀行の増資するものが多く業務範圍の擴張と共に新設銀行は雨後の筍さながらに激増し、これらは中國々貨、中國企業、中國農工、中國墾業、中匯、浦東商業儲蓄、國華等百二十餘行の多數に達した。この當時までに上海は全國金融界の中樞としていよいよ重要視され、各地諸行は競つて或はここに總行を移轉し、或は支行を開設したのであつて、大資本、大規模經營の銀行はすべて上海に集中したのである。

(イ) 南京、上海により近接地にある上海が一切の輸出入貿易、外國爲替、工業投資等の中心地となり自然金融機關が集中したこと。

(ロ) 國民政府の前後十數億に上る公債發行の累増が、有利な投資として銀行業者の發展を促進したこと。

(ハ) 一九二八年以後の銀價高騰による商工業の發展、土地の暴騰等が投機を跳梁させるようになったこと。

しかし當時の金融機關は列國の水準に比しては格段の逕庭があり、その基礎が脆弱なためにひとたび經濟恐慌とも

なるに崩壊必至の状態で、濫觴時代を一步出たに過ぎなかつた。一九二八年國民政府が南北統一後の新秩序の下に中國金融の支軸として中央銀行を設立するまでは、中國、交通兩銀行が國庫を分理し、紙幣の發行を行い、中央銀行的機能を營んで來たのであるが、政變と内亂とのためその健全な發達は妨げられて來た。

一九二八年六月國民黨は天下に覇を握り、國民政府が名實ともに中央政權と認められるに及んで、中國の政治的安定は經濟的安定を前提とすべきことを痛感し、先ず經濟建設の樞軸たる貨幣金融制度の改革に着手し「財政整理大綱」を發表したが、その中金融機構對策としては次のような根本方針を含んでいた。

(1) 國家銀行の組織

金爲替本位制度實行の上からも最も鞏固にして完備し、且つ最も信用ある國家銀行が必要であり、その組織の下に紙幣の發行、金融の整理、國庫代理等を悉く集中處理することにより業務並に勢力を増強する。

(2) 爲替銀行の設立

爲替銀行を設立して元來外國銀行の取扱になつてゐる華僑の本國向送金、外債償還金による利益を挽回する一方金融の圓滑と經營の適切化を圖る。

(3) 農工銀行の設立

國民生活の根幹たる農工事業の發達を期するため農工銀行を設立し、低利金融を圖る。

(4) 貯蓄事業の獎勵

近年外人の經營にかかる賭博的貯蓄機關を排撃すると共に、健全なる貯蓄事業を獎勵し、貯蓄の習慣を養成する。右の金融建設方針に基き、同年十一月中央銀行が設立されたのである。同時に中國銀行は外國爲替銀行として、ま

た交通銀行は全國實業銀行としての權限をそれぞれ賦與され、國家銀行としての資力と人力とが大いに増強され、中國金融界の一安定勢力となつた。

翌一九二九年には中國政府は米國プリンストン大學教授にして貨幣問題の世界的權威であるケメラ博士を招聘して中國貨幣問題の解決を求めた外、内外各方面の權威の意見を聽取してその貨幣、金融建設に致々として努力して來たが、遂に一九三三年四月には銀兩を廢止して銀元を中國幣制の本位的貨幣たらしめ、併せて十進的補助貨制を採用して、幣制統一の完成を期した。かくて廢兩改元後は新興資本家階級たる浙江財閥を基底とする近代的華商銀行群の銀元を中心とする金融勢力が漸次増大し、銀兩中心の前資本主義的金融機關たる錢莊の地位を根本的に打倒し得る段階に到達した。また貨幣の發行と管理の權限は民間團體たる各地錢莊業者のギルド組織から國民政府の手に移行し、國家權力をもつて中國經濟社會を統制し得るに至つた。

一九三〇年當時から世界的經濟恐慌の波及を受けた中國の金融恐慌により、錢莊は相繼いで倒産し、資力の大なるもののみが改組して銀行として殘存した。群小銀行も同様完全に整理され、銀行集中の過程を辿つた。次いで一九三五年十一月三日中國は數年來喧傳されて來た幣制改革の實施を宣布した。改革以前は中國側銀行三十數行の外、外國系銀行、中國の個人、商店、軍閥等が種々の紙幣を發行し、内外銀元、銅元等の鑄貨も濫れ流通していたのであるが、改革以後は中央、中國、交通の三政府系銀行の發行する紙幣をもつて法幣と定め、法律上の強制通用力を持たしめ、宿望の幣制整理が實現した。なおその後軍事委員會の機關銀行である中國農民銀行も一億元を限度としての法幣發行が認められた。政府系四銀行はこのような貨幣統一によつてその中國金融界における獨占的地位の強化を圖つたのである。また新式華商銀行はこの政策を契機として從來の公債、地産への投資から、農業並に建設事業への投資へと中

國經濟社會の變化に即應して業務轉換をみせた。

幣制改革の成功は國民政府自身及びその經濟的支柱たる浙江財閥の地位を、地方政權並に地方財閥に君臨せしめ、中國の經濟社會を完全に支配したのであつて、民衆はその國家と幣制との健全な發展を待望援助せざるを得なくなつた。政府は幣制改革の成果を一層鞏固ならしめ、堅實性ある近代的中央銀行の形態を具備した新國家銀行として中央儲備銀行の設立を約束したが、その實現を目前に控えた一九三七年七月七日日華事變は勃發したのである。

二、中國側金融機關

(一) 政府系金融機關

(1) 概 説

政府系金融機關の發展は中國における國民政府の勢力強化、經濟支配の過程と照應するのである。すなわち一九二七年國民革命軍が上海に進駐するや、上海中央銀行の開設を企圖したのであるが、一九二八年六月南北統一に成功した國民政府が中央政權として内外より承認されるに及び、同年十一月一日國家銀行として紙幣の發行、金融の調整、國庫の代理等を任務とする中央銀行（總行上海）を開設した。同行は政府機關銀行であつたが多數の在來一般銀行に伍して寧ろ劣勢にあつた。北京政府の中央銀行であつた中國、交通兩銀行は中央銀行の設立と共に改組され、それぞれ外國爲替、實業發展を主要業務とし、人的及び物的の支配力の増強と確立を圖つたのである。また國民政府は一九二九年財政部勢力を國產品生産の發展と入超挽回とを目的とする中國々貨銀行（註(1)）に、一九三三年實業部勢力を實

業發展を目的とする農商銀行（註(2)）に加えてその育成を圖つた。更に一九三四年前後の金融恐慌の深刻化に伴い、內國公債消化力の増進、中央銀行の實力と信認の向上、金融制度の合理化及び兌換券並に正貨準備の集中等幣制改革の下工作として、金融機關の國家的統制の必要を痛感した政府は、同年末に中央銀行の資本金を二千萬元から一躍一億元に増加させると共に、經營困難に陥つた上海の有力三發券銀行をその支配下に置いた。すなわち一九三五年五月中國實業銀行（一九一九年創立、一九三二年總行を天津から上海に移轉、資本金三百五十萬餘元）並に同年六月四明商業儲蓄銀行（一九〇八年創立、資本金百五十萬兩、半額拂込、廢兩改元後三百二十五萬元）、中國通商銀行（一八九七年創立資本金五百萬兩、後新株を加えて七百萬兩）を先ず政府の人的統制下に置き、次いで一九三七年三月、三銀行とも改組されて資本金はそれぞれ四百萬元となつたが、財政部はその八、九割に相當する總計一千五十八萬餘元の持株を有することになり、いずれも復興公債でもつて拂込み三行を資本的にも統制したのである。

(註(1)) 中國國貨銀行は一九二九年十一月十五日上海を總行に開業した。公稱資本金二千萬元、内拂込五百萬元、政府の持株は五分の一を占め、人的關係は董事十五名（内政府代表六名）、常務董事五名（内政府代表二名）、監察人九名（内政府代表五名）、常任監察人三名（内政府代表二名）で董事長は常務董事互選の上財政部が任命することになつてゐる。

(2) 農商銀行は北京政府農商部が官民合辦で設立し、その後國民政府に引繼がれたが一九二九年三月停業した。一九三三年復業、資本金は三百萬元、全額拂込でこの中政府持株は二割となつており、人的關係は董事十五名（内實業部特派一名）、監察人五名（内實業部特派一名）となつてゐる。

一九三五年には全國金融制度の改善並に中央銀行制度の推進に適應するため、中央、中國及び交通の三銀行條例が改訂公布され、特權業務、就中兌換券發行についての強化策がとられ、政府の資本的、人的支配力が強化された。三行は法幣による紙幣發行權の統一に乗出したが、同年六月には中國農民銀行をも政府系發券機關の一翼に加え、その

他の銀行の銀行券發行權を奪い、公債市場の統制、金銀の國有等と相俟つて民間銀行の在來業務を極度に制約し、中國金融市場における地位を著しく引下げてしまつた。すなわち廢兩改元以來前資本主義的封建資本を代表する錢莊は新資本主義的民族資本を代表する新式華商銀行に克服され、次いで招來された幣制改革その他一連の統制によつて華商銀行資本は國家銀行資本に對して屈服を餘儀なくされたのである。爾來この政府系四銀行は一般銀行より超然たる地位に立ち、中央銀行はその中心的存在として中國金融市場を廣汎且つ強力に統制し得るに至つたのであり、國民政府は金融機關を通じて中國經濟支配の機構を確立したのである。

幣制改革の行われた一九三五年末において政府系四行が全國華商銀行百六十三行において占めた資産總額の割合は五六%、銀行券發行額の割合は七八%に上り、政府系銀行の業務の範圍は當時すでに全國華商銀行の過半を占めていたのであり、その業務種類は中央銀行、商業銀行、爲替銀行、興業銀行、農業銀行、貯蓄銀行、信託會社、倉庫會社、保險會社等の一切の金融部門にわたつていたのである。

このように國民政府の銀行統制は急速に促進されたが、これと併行してその他の金融機關についてもその勢力の擴大強化が實行された。すなわち財政部系における中央銀行は一九三五年十月中央信託局を設け、更に同局は一九三六年三月中央儲蓄會を開業した。交通部系には一九三五年三月郵政儲金滙業局が、實業部系には一九三六年九月農本局があり、全國經濟委員會系には一九三四年七月中國建設銀公司が設立されている。

また一九三六年廣東省政府の國民政府への屈服に伴い、中央は廣東を接收し、同年七月廣東省銀行（始め一九二四年國民黨の中央銀行として設立、一九三三年改組、資本金毫洋一千五百萬元）、同年九月廣州市立銀行（一九二七年設立、資本金毫洋六百十六萬餘元）へそれぞれ政府系人物を特派して廣東幣制の整理とその中央化工作に當らせた。

幣制改革以後財政部は各一定の對象と營業範圍を持つ中央準備銀行を始めとする八大銀行の實現に努力し、各業交錯しての無意味な競合の弊を避けるよう金融統制の具體化を圖つた。すなわち八大銀行とは中央準備、爲替、不動産抵當、實業、農業、工業、信託、儲蓄の諸行である。かくして中央銀行を中央準備銀行に、中國銀行を爲替銀行に、交通銀行を實業銀行に改組することが企圖されたが日華事變のため挫折した。

一九三七年全面抗戰展開後、四行は國家金融機關として非常時に對處し戰時軍政經濟に適應するため、資力集中及び統一運用の必要から上海に四行連合辦事處總處並に四行連合貼放委員會を設立し、連合して四行業務を處理することとなつた。一九三九年十月國防最高委員會決定の「戰時中央金融機構健全辦法綱要」に基き、四連總處は改組され四行連合貼放委員會を合併してその職權を著しく擴大し、四行の紙幣發行及び資金の集中並に運用は悉く總處の審査決定を経て處理されることとなつた。

政府は戰時中から農業金融機構の整備を企圖して來たが、一九四六年十一月合作社組織の健全な發展を圖るため中央統制機關として中央合作金庫を設立した。また各地金融機關が戦後の悪化するインフレーション下にあつて投機並に非合法活動に跳梁するのを防止し市場の安定を圖るため、一九四七年十二月金融管理局を新設した。

なお政府は政府系金融機關の總行を首都南京に集中せしめる計畫の下に、一九四七年末までに從來上海に總行を有した政府系四行の移轉を完了した。

(2) 中央銀行

中國における中央銀行という名稱は一九二四年に設立された廣東政府中央銀行（註）に始まるようである。當時中央銀行業務を擔當していたのは中國、交通兩銀行で、國庫の代理、兌換券の發行が行われていたが、これとても中央銀行

としての規範を盡していた譯ではない。中央銀行は中國の統一と建設を企圖した國民黨が、その機關銀行設立による經濟建設、金融建設の解決こそ、政治的實權者としての生長と發展を期し得るとして且つは軍費調達の必要に促されたもので、一九二七年十月二十五日國民政府公布の中央銀行條例並に十月二十九日公布の中央銀行章程に基礎を置くが、翌一九二八年七月北伐に成功し、東三省を除く全國統一が完成したのを契機として、同年十月五日改訂公布の中央銀行條例並に十月二十五日公布の改訂中央銀行章程により、同年十一月一日資本金二千萬元(全額政府拂込)で、財政部長が總裁を兼任する純然たる國家銀行として、總行を上海に設置して開業したのである。しかしその營業方針においては近代的中央銀行理論とは懸隔したもので單なる發券的商業銀行に過ぎなかつた。しかも歴史は淺く資力は薄く、加えて國內政治の不安と不統一により、一般華商銀行に伍してその勢力の點からも、信用の點からも顯脱したものではなく、財政支出の重要方途たる內國公債募集についても各銀行業者の顔色を窺う始末であつた。一九三三年の改元廢兩によりまた金融恐慌の襲來に鑑み、一九三四年末には資本金を一億元に増資して漸次統制力を強化した。一九三五年五月二十三日の改訂中央銀行條例に基き中國、交通兩銀行更には中國農民銀行をも含む政府系銀行の中心的存在として、全華商銀行の上に支配的地位を獲得した上、同年十一月三日には懸案の幣制改革を斷行した。

(註) 廣東の中央銀行は上海の中央銀行成立に伴い一九二九年三月省立銀行の性質を帯びた廣東中央銀行に改組され、一九三三年一月には廣東省銀行となつた。

右の改訂中央銀行條例の要項について見れば次の通りである。

(1) 國民政府が設置する國家銀行として次の特權を賦與されている。

- (a) 貨幣の發行 (b) 國庫の經理 (c) 内外公債の經理

(四) 總行を首都に設立する。

(五) 資本金 總額一億元、全額國庫支出。

(二) 役員

理事十一名ないし十五名をもつて理事會を組織する。その中には農工商及び銀行の各業を實際に經營するもの少くとも各一名を含む。理事會に國民政府が理事中より指定した常務理事五名ないし七名を設ける。

國民政府から特派された監事七名をもつて監事會を組織する。その中には農工商及び銀行の各業を實際に經營するもの各一名及び國民政府會計検査機關の派するもの一名を含む。

總裁一名を設け特任とし、副總裁二名を設け簡任とする。

なお任期は總裁、副總裁及び理事は三年、監事は會計検査機關派員を除き二年とする。

(六) 業務

- (a) 預金の收納 (b) 各銀行法定準備金の收納管理 (c) 手形交換及び各銀行間の振替清算の處理 (d) 政府發行或は保證の國庫證券及び公債利札の再割引 (e) 國內銀行引受手形、國內商業爲替手形及び約束手形の再割引 (f) 國外支拂の爲替手形賣買 (g) 内外の確實な銀行の一覽拂爲替手形、小切手の賣買 (h) 政府發行或は保證の公債、庫券の賣買 (i) 地金銀及び外國貨幣の賣買 (j) 内外爲替の辦理及び銀行約束手形の發行 (k) 地金銀を擔保とする貸付 (l) 政府發行或は保證の公債、庫券を擔保とする貸付 (m) 政府委託の信託業務

一九三五年の新貨幣制度の豫定せる發展段階は中央銀行を改組して中央儲備銀行(註)を設立せんとするにあつた。すなわち現行の各種の特權を強化補整する上、近代的中央銀行的形態を備え全國金融を完全に把握すると共に、

政府色の濃厚な金融機關に墮して政潮の起伏に翻弄されていた中央銀行を、形式上全く面目一新して超然獨立狀態に置かんとしたものである。中央儲備銀行法案は一九三七年三月二十四日中央政治委員會を通過し、同年六月二十五日には立法院秘密會議を通過したのであつて、不日公布の上大體同年十一月四日の幣制改革五周年を期して發足するものと見られていた。しかし同年七月日華事變が勃發したためその實現は期せられず、計畫は一頓挫してしまつたのであつて、中央金融機關の統制力は戰時金融政策の建前において四行連合辦事處總處の機能により強化されることとなつた。

(註) 中央儲備銀行の略稱は依然「中央銀行」とする筈であつた。最初の名稱は中央準備銀行であつたが孔祥熙財政部長の主張により中央儲備銀行が採擇された。

しかしながらその反面中央銀行は一九三五年以降年來の鋭意な改善により、「銀行の銀行」としての機能を十分に發揮するための發行權の獨占、國庫代理、一般銀行準備金の集中、全國銀行間の決濟、金融界の最終貸付、全國銀行の信用管理等の諸條件を一九四三年頃までには大體具備したが、次の諸點につき改善強化を圖つて來た。

(イ) 發行權の獨占

中央銀行は幣制混亂に對處するために一九四二年七月一日から「中央統一發行辦法」により中國、交通、中國農民三行の發行權を停止して法幣發行權を集中した。このため三行は六月二十八日までその發行準備金を全面的に中央銀行に移管した。しかしなお一部の地方銀行では紙幣發行を繼續していたのであつて、その發行が中央の管理下にあるとはいへ發行統一の原則に合致せぬためその早急の停止が希求された。

(ロ) 國庫の代理

一九三九年十月「公庫法」の公布により中央銀行が國庫業務を代理することとなつたが、實際的要求により分區施行が定められた。一九四二年からは各省財政を中央で統一處理することとなつたので公庫制度も一層普遍化され、中央銀行の國庫代理業務の一段の擴大を要することとなつた。

(ハ) 一般銀行預金準備金の集中

國府は一九四〇年八月七日「非常時期管理銀行暫行辦法」(註)を公布して一般商業銀行へも統制を擴大した。これにより各銀行は取扱預金の二割を準備金として四行のいずれか一行に再預入することとなつた。しかし四連總處は預金準備金集中制度の完成を期するため、中央銀行一行のみで準備金を取扱わせるようにした。その後同行にこの準備金の比率を實情に應じ隨時變更し得る權限を賦與すると共に、その他の政府系各行局の預金に對しても一般銀行同様準備金を納付させることが問題となつた。

(註) 「非常時期管理銀行暫行辦法」は一九四六年四月十七日戰時體制より平時體制に移され、「財政部管理銀行辦法」に修正された。その内容は民間銀行再預金率、貸付期限、銀行業務範圍、銀行投資の制限のほか財政部の監督權の強化等を盛りこんだものである。

(ニ) 全國銀行間の決濟

中央銀行では一九四二年六月重慶市の手形決濟を開始して以來、これにより各行の資力の厚薄を知悉し銀行管理遂行上の根據となり得て、金融界の不安を事前に處理し得る効果を發揮し得るに鑑み、早急に全國の各重要金融中心地に手形決濟機構を設置することにした。

(ホ) 金融界の最終貸付者

中央銀行が金融界の最終貸付者となるには、その一般銀行業務を放棄することにより始めて一般銀行の依存關係は密接化し、その管理も容易となる譯である。加えて一般銀行に對する貸付は再割引方式が良策と思われるが、中國では手形行使が一般化せず従つて完全な手形市場が樹立されないために、その効果を十分發揮できないのであつて、政府系銀行の手形引受、手形割引等の業務を先ず行うことにより、一般銀行、商社にその風習を涵養させ手形市場を樹立することが要望された。

㉓ 全國銀行の信用管理

全國銀行の信用管理のためには上述の一般銀行準備金の増減政策並に割引政策等の外に、公開市場政策並に預金操縦政策を必要とするが、中國では健全な證券市場がなく産業證券が少いため公債投機の取引所と化していたのである。それ故に健全な證券市場の樹立準備に努力し、戦後の公開市場政策の運営を期さねばならなかつた。また預金操縦政策は中國稅收の弾力性及び財政、金融兩政策の連繫を圖ることにより效力を發揮しなければならなかつた。中央銀行は舊淪陷區に復歸後の一九四六年十月十一日、第一回全國業務會議を開催し、國際金融組織中五大強國の一の地位を獲得したものの、國內的には生産が停滯し民生も不安にある際とて、國際的約定義務の完遂と國內經濟的需要の適應とを同行の當面の主要任務として邁進することを決議すると共に、次のような戦後對策が講ぜられた。

- (イ) 中央銀行は當然國家銀行であるのみならず、重要な銀行の銀行としての責任を積極的に負擔すると共に、一般銀行に對し提携領導の任務を果し、全國銀行制度機構の充實を圖る。
- (ロ) 獨善と勢力爭奪の弊に陥つた四連總處をして舊套を脱せしめ十分の能力を發揮させる。
- (ハ) 中央銀行は全國の主要經濟地區に分行を設立し、それぞれ管轄地區内の全公私立銀行業務の監督を行わしめ、各

地經濟需要に對し敏速に適應せしめる。

(ニ) 人事の調整に留意し、行員の能率と服務精神の向上並に官僚的氣風の消除に努める。

戦後において中央銀行が中國金融界の王座を占めるに至つたことは、戦前中國金融活動を支配して來た外國系銀行が一九四三年一月の中米、中英間新關係條約締結による不平等條約の廢棄と戦時中停業を餘儀なくされたことによりその地位を轉落して、一般華商銀行と同一待遇に置かれるようになったためである。戦前國家銀行とは名目のみで事實は一商業銀行に過ぎなかつた中央銀行が、ほぼ各國の中央準備銀行の機能を營むこととなり、戦前の外國系銀行以上に中國の金融統制權を掌握するに至つた。戦後の今日中央銀行の營む機能は次の通りである。

- (イ) 中央銀行は唯一の發券銀行である。その他の國家銀行は新銀行券の發行を禁止されているばかりでなく、従前發行した多量の銀行券は漸次回収されつつある。
- (ロ) 中央銀行は唯一の準備預託銀行である。中國において金融業務を營む外國系銀行を含む全商業銀行、錢莊等はその顧客の當座預金現在高の一定率（普通預金は一割五分ないし二割、定期預金は七分ないし一割五分）を中央銀行に再預金しなければならない。
- (ハ) 中央銀行は中國の全重要都市に對する決済銀行である。上海の銀行間決済は現在もなお戦前上海銀行同業公會により組織された連合準備委員會の内部で行われているといえ、中央銀行の監督下にあり、その決済は中央銀行に設定された銀行準備金に宛てて振出された小切手によつて行われている。
- (ニ) 中央銀行は正式の外國爲替銀行である。他の銀行が外國爲替の取引を行うためには、中央銀行から特別の「指定」(註)を受けなければならず、その指定を受けることにより初めて商業銀行は中央銀行の代理店として外國爲替

國庫總庫及所屬分支機構統計表

1947年8月末現在

中央銀行國庫局調

代理行名	總計	合計		分庫		支庫		收支庫		經收處	
		既設	準備中	既設	準備中	既設	準備中	既設	準備中	既設	準備中
中央銀行	98	87	11	1	35	6	40	5	11	—	—
中國銀行	71	61	10	—	—	—	41	4	11	4	9
交通銀行	55	52	3	—	—	—	29	—	8	3	15
中國農民銀行	76	71	5	—	—	—	56	5	4	—	11
郵政儲金匯業局	869	804	65	—	—	—	281	21	69	18	454
浙江省銀行	70	70	—	—	—	—	62	—	8	—	—
安徽省銀行	34	34	—	—	—	—	34	—	—	—	—
江西省銀行	63	63	—	—	—	—	63	—	—	—	—
湖北省銀行	11	11	—	—	—	—	11	—	—	—	—
湖南省銀行	47	47	—	—	—	—	16	—	31	—	—
四川省銀行	54	53	1	—	—	—	53	1	—	—	—
西康省銀行	5	5	—	—	—	—	5	—	—	—	—
福建省銀行	55	55	—	—	—	—	55	—	—	—	—
廣東省銀行	78	76	2	—	—	—	71	—	5	2	—
廣西省銀行	31	31	—	—	—	—	21	—	10	—	—
江蘇省銀行	4	3	1	—	—	—	2	1	—	—	1
河南省銀行	19	19	—	—	—	—	18	—	1	—	—
陝西省銀行	44	44	—	—	—	—	14	—	27	—	3
甘肅省銀行	61	61	—	—	—	—	61	—	—	—	—
河北省銀行	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
山東省銀行	2	—	2	—	—	—	—	2	—	—	—
雲南勸業銀行	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1
中央信託局	2	2	—	—	—	—	—	—	—	—	2
中央合作金庫	1	1	—	—	—	—	—	—	—	—	1
資陽縣銀行	5	5	—	—	—	—	—	—	—	—	5
三臺縣銀行	3	3	—	—	—	—	—	—	—	—	3
總計	1759	1659	100	1	35	6	933	39	185	27	505

また中央銀行は現在行っている再割引並に再擔保貸付政策に嚴重な制限を設けているものの、一般銀行の資力を援助しこの間の連繫を深めて金融統制を容易ならしめると共に、更に要望されている公開市場政策の強化へと進展しているのである。

なお現在國庫業務は財政部國庫署の委託により中央銀行國庫局がその收支の代理を行うと共に、同行分支行及びその未設立の地域においてはその他の國家各行局及び各省銀行に代理收支を委託しているが、その現勢は次表の通りである。

- (a) 不動産、證券及び一定商品に對する銀行貸付に最低限利率を設定する。
- (b) 國內爲替並に中央銀行再割引手段の使用を促進する。
- (c) 華商銀行が投機活動に資金を供給するための常套手段たる銀行支配人の事後日附小切手を忌避し、新型筆記具使用による署名小切手を無効とさせる。

(註) 中央銀行の「指定」を受けたものは一般銀行二七行(内華商銀行一六行、外國系銀行二行)及び個人の仲賣一六(華人八、外人八)といわれている。

を取扱得るのである。

(注) 中央銀行は中國における金の保管者である。
中央銀行は次の諸點で商業銀行の日常業務を監督する。しかし各種の問題を取扱う際直接に商業銀行に多少命令的に通達するか、または單に銀行同業公會を通じて注意を興えているが、如何なる點でも公式に指令することはないのである。

(3) 中國銀行

中國銀行は政府中央銀行たらしめんとして設立された戸部銀行から出發し、その後繼者である大清銀行の清算後、一九二二年二月五日その上海支店から發足したものである。(註)その業務は新政府のために全國金融市場を統制するにあり、中國の中央銀行たる建前において普通業務の外に國庫事務の取扱、兌換券の發行等の特殊業務を擔當した。その資本金六千萬元の内半額は政府が出資した。創立當初は革命のため一般民衆の紙幣への不信任により紙幣流通量も極めて少額であつたが、その後國力の統一と金融狀況の改善により業績も漸次好轉して來た。一九一六年春同行は袁世凱の帝位問題を繞る紙幣兌換の停止、預金支拂の禁止に逢着したが、翌一九一七年十一月資本構成並に役員規定の改正等の改革強化策により國家中央銀行としての實力を具備して來た。しかしながら同行はその設立當初より基礎が脆弱であつたため、固より全國的金融中樞機關として名實兼備したものではなかつた上、政府發券銀行として交通銀行との對立があり、また當時の政府に對する民間の反撥も加わつてその堅實化は容易でなかつたといへ、上海民間銀行のリーダーとしての地位を保有して來たのである。

(註) 資本金缺乏により開業を見たのは同年八月一日である。

一九二八年十一月の中央銀行條例の制定に伴い、十月二十六日中國銀行條例は改訂され、資本金も二千五百萬元(内政府持株五百萬元)となり、國民政府特許の外國爲替銀行となつた。この新條例で營業年限の修正、本行所在地の北京から上海への移轉、業務の管理等が實施され、財政部は董事十五名、監察人五名中董事三名、監察人一名を特派し、また董事長を常務董事中より任命した。また同行が從來特殊業務としていた國庫事務の一部取扱並に兌換券發行については依然その繼續を容認されたものの、中央銀行により著しい壓迫を蒙ることになつた。

一九三五年三月二十八日には幣制改革に基き中國銀行條例は再び改修され、資本金を四千萬元(政府民間折半出資)に増資すると共に、役員規定における財政部の権限が擴大された。このようにして國民政府は中國銀行をその管理下に置き資本増額の政府引受、業務管理への政府介入等により政府系銀行としての立場を固めた。

この中國銀行條例により同行の業務範圍を見れば左の通りである。

- (イ) 政府及び中央銀行による委託業務
- (a) 外國公債の代理發行及び償還並に利拂の經理
- (b) 政府在外資産の受入及び支拂の經理
- (c) 外國貿易の獎勵または補助
- (d) 一部國庫事務の代理
- (ロ) 財政部特許による兌換券の發行
- (ハ) 營業種類
- (a) 内外爲替及び荷爲替手形の取扱
- (b) 確實な商業手形及び爲替手形の割引或は買入
- (c) 地金銀及び各國貨幣の賣買
- (d) 各種預金の受入並に證券手形及びその他一切の貴重品の保護預り
- (e) 銀行、會社、銀號及び個人に代る各種手形の取立
- (f) 確實な擔保による貸付

(g) 政府の委託による内債の募集或は經理
(h) 營業狀況を酌量した公債證券の賣買

一九四二年七月一日からはその紙幣發行權を停止されたが、同時に政府系特許銀行としてその基礎を強化すべく資本金を六千萬元に増加し、更に九月十五日には一億元に増資した。かくして同行は外國爲替取引、手形割引、普通割引、普通貸出等の業務を取扱うことになった。

政府は日華事變勃發以後外貨に對し漸次統制を加えて來たが、一九四二年五月の「統一外匯管理辦法」により四行の外貨業務を財政部で集中管理することとなつたため、中國銀行としてもその外國爲替銀行としての任務を發揮することが困難となり、特に國際貿易の發展を圖る銀行として再出發しなければならなくなつた。これにつき一九四三年には修正條例が公布された模様であるが、この使命を遂行して行く上に次の諸點に關して努力が拂われた。

(a) 輸出向産業育成 (b) 海運業建設への援助 (c) 輸出貿易に對する補償

なお同行の一九四六年度營業報告は次の通りである。

一九四六年度においては國內秩序はまだ十分恢復してゐず、各地の物價も安定してゐないが、本行の各項業務は政府の監督指導、各株主の援助及び同人の努力により次の通りひとしくやや進展してゐる。

(i) 預 金

本年度末の内外行處の各種預金總額は四三五億餘元で、前年度に比し三八四三億餘元を増加した。國內預金はその内五四%、國外分は四六%を占めてゐる。國內の預金者は鑛工業者が四一%、各種機關は三五%で、個人は僅に一一%に過ぎぬが、團體、商店等は二三%である。

(ii) 貸 出

本年度末貸出殘高は二七七八億餘元で、前年度に比して二六三五億餘元の増加であるが、その内譯は國際貿易貸付が第一位で約四三%、鑛工業は二九%、運輸業が一八%、その他交通、公共事業等が一〇%である。政府取扱の華僑復業貸付は漸次進展中である。

(iii) 爲 替

(a) 内國爲替 本年度國內爲替金取扱總額は一九、一二九億餘元で前年度比一六、三六二億餘元増加であるが、商工爲替送金が最も多かつた。

(b) 外國爲替 一九三五年度末國外部隨總管理處が上海に移り、外國爲替事業も發展して來た。一九三六年三月四日外國爲替市場が開放され、そのレートが調整されたが、本行は輸出事業に對し簡易爲替取引手續をする一方荷爲替賣買方式で融資して國産品の海外販賣を促進し、外貨輸入に對して必需物資を選択し外國爲替を供給して來た。次に爲替資金流出についてはやや緊縮を加えて節減を圖つてゐる。國外部が輸出により増加した外國爲替は總計約八百萬米ドル、輸入により支拂う外國爲替の總計は約三三百萬米ドルであるが、この輸出入爲替の數字はわれわれの理想に一致しない。これは本行の獨力では轉移できないところである。國外部及び分支行の輸出入外國爲替收支は一二〇百萬米ドルで全國對外貿易總額の中の相當部分を占めてゐる。華僑送金は一、二月分レイトが未調整であつたが、補助金辦法で業務は旺盛となつた。三月四日より補助金辦法の廢止により、その後レイトが漸次高くなり、本行の取扱額も逐日減少した。年末までには總計約六一〇億元で前年に比し増加約六〇〇億元である。

(二) 投資

過去において本行は後方の生産促進をもつて抗戦實力を増強して来たが、復歸後四連總處の審査を経て本行が参加したものの対象は多くは生産、運輸機構である。

(ホ) 分支機構動態

各地分支機構はその實際的需要により、年度末までに増減があつたがその總計は二二二、その内國內二〇五、國外一七で、復業したものは青島、鄭州、長春等五八、國外はラングーン、海防等五、増設は國內一六、國外一、減少は國內二六、國外一である。

(4) 交通銀行

交通銀行は一九〇七年十一月四日郵傳部の奏請により、わが國の興業銀行に範をとり、航運、鐵道、電信及び郵便の四部門から生ずる収入を管理し、實業を振興する目的で創立され、日本銀行の組織に倣つた戸部銀行と對抗して行く意義を持つていた。同行は資本金一千萬兩の内政府が五分の二を引受け、民間には殘餘が提供された。一九一一年の辛亥革命は同行にも悪影響を及ぼしたので、一九一四年章程が改修せられ、同行は政府特許による兌換券發行の權限を賦與された外、政府委託による國庫分割管理、特別會計の國庫金の管掌、在外資金の專任管理を行い、國家銀行としての性格を多分に持つようになつた。事實同行は中央銀行擡頭以前においては一般から中國銀行と共に中央銀行と看做されて来たが、完全中央銀行といふ得るものではなかつた。しかも交通部を背景とする同行の政策は創立當初に比し漸次變化し、政争の温床として財政部の後援する中國銀行と競合し、政府資金の保管を巡つて軋轢を演じたのである。加えて時の大總統袁世凱は自己の野望達成を圖らんと同行の財源を自由に利用したため、一九一七年彼の失

墜と共に營業狀態は悪化したのである。一九二八年中央銀行の創設により同行は轉換を餘儀なくされ、十一月十六日交通銀行條例により全國の實業發展を目的とする特許實業銀行の性格を賦與された。これにより同行は營業年度の修正、總行の北京から上海への移轉、業務の管理規定等の改訂と共に、從來の交通、財政兩部の二重管制を廢して財政部管轄となり、役員に財政部代表が参加した。なお資本金も一九二二年の二千萬元を銀一千萬元に改め、政府引受一千二百萬元、殘部は民間公募とした。一九三〇年儲蓄及び信託部が附設され、一九三五年交通銀行條例改修により同行を政府の管理下に置き政府系銀行としたが、同條例要綱は次の通りである。

(イ) 設立目的

國民政府特許により全國實業發展を圖る。

(ロ) 資本金額

二千萬元、内譯政府出資一千二百萬元、民間出資八百萬元。

(ハ) 業務範圍

(a) 政府及び中央銀行による委託業務 政府公債庫券の募集及び償還利拂の經理、公共實業機關債券の代理發行及び償還利拂の經理、交通事業出納事項の代理、その他實業獎勵及び發展に關する事項の處理、一部國庫事務の經理。

(b) 財政部特許による兌換券の發行

(c) 營業 實業會社發行の社債の應募または引受の經理、確實な擔保をもつてする貸付及び實業工場商店の當座貸付、實業用の動産不動産擔保貸付、確實な商業手形及び爲替手形の割引或は買入、各種預入の受入並に證券手

形及びその他一切の貴重品の保護預り、信託貯蓄業務、各種勘定の代理取立及び立替拂、國內外爲替業務及び荷爲替手形の取扱、證券地金銀及び各國貨幣の賣買、倉庫運輸及び保險業務、實業獎勵の投資。

(一) 政府の人事権管理

(a) 理事二十一名、監事七名中、財政部は理事九名、監事三名を任命する。

(b) 理事中より互選された常務理事七名中、財政部は一名を理事長として任命する。

一九四二年七月一日から「中央統一發行辦法」により中央銀行が發行權を獨占したため、交通銀行はその發行權を停止され、發行準備金を中央銀行に移管した。同時に同行は全國實業發展を任務とする政府系特種銀行として専心することとなり、資本金を六千萬元に増資(増資分は政府持株)すると共に政府職員派遣による統制力が強化された。同年九月十五日更に資本金を四千萬元増資して一億元となった。

戰時中交通銀行の任務は次のようなものがあつた。

(1) 國家經濟建設政策への適應

戰争勃發後の各種經濟建設計畫は悉く軍事的要求を中心としたものであつたが、經濟建設として全般的政策の確立による國防工業並に民生工業の建設順序及び各種鑛工事業開發區域の劃分問題並に各種生産事業の調整問題等の計畫に對し政府の要求と合致して金融援助を行う。

(2) 國內實業發展への積極的指導

過去の中國金融界の産業發展に對する態度は消極的であつて、單に既存工場鑛山の抵當貸付のみを取扱つて來たが同時に鑛工業自體も資力の不足と規模の狭小により大規模の發展は困難であつた。このため交通銀行は積極的

態度をもつて政府の政策に合致する主要事業資金に極力援助を與え、貸付の方法と條件を寛大にし、大規模な新式工場鑛山設立に盡力すべきである。生産事業に對してもその改善を促進し合理的發展を期すべきである。

(3) 金融界を領導して共に國內産業の發展に當る

一般銀行の多くは商業銀行に屬しており、これを直接生産事業に従事せしめることは業務性質に一致せぬ上、企業界とは在來より密接な連繫を缺いていた。單獨投資をなすことは問題であるから生産事業に巨額の資金を必要とする場合は、交通銀行の領導の下にシンジケートの組織による各行の参加を求め共同處理をなすべきである。

(4) 國內資本市場の樹立

中國の産業未發展は民間蓄積資力吸收の資本市場のないことによる資金の缺乏に起因しているのであるから、歴史と信用とを誇り全國産業發展を使命とする交通銀行は産業證券または信託證券の發行を極力提唱し、資本市場の樹立に當らねばならない。

(5) 中國農民銀行

中國農民銀行はもと豫(湖南)鄂(湖北)皖(安徽)贛(江西)四省農民銀行(略稱四省農民銀行)といひ、豫鄂皖三省剿匪總司令部の特許により、資本金一千萬元(内拂込五百萬元)の官民合辦銀行として、一九三三年四月一日漢口を總行として開業した農業銀行であつて、前記四省を流通區域とする紙幣發行權を享有していたが、その發展は頗る迅速で營業區域は四省外にも伸長したのである。同行は一九三五年春國民政府特許の農業銀行となり中國農民銀行と改稱された。同年六月四日公布の中國農民銀行條例によればその要綱は左の通りである。

(1) 設立目的

農民資金の供給、農村經濟の復興及び農業生産の改良進歩の促進を圖る。

二六

(四) 資本金額

一千萬元、内譯財政部出資二百五十萬元、殘餘は各省、市政府並に一般人民から募集する。

(五) 營業範圍

- (a) 農村合作社、農業發展事業、水利備荒事業、農業倉庫の經營及び農産農具改良事業等に對する貸付
- (b) 動産、不動産の抵當貸付及び信用保證貸付
- (c) 手形の引受または割引
- (d) 各種預金及び貯蓄預金の受入
- (e) 各種勘定の代理取立及び立替拂
- (f) 爲替業務及び同業短期勘定の辦理
- (g) 有價證券の賣買
- (h) その他農民銀行として必要な業務

(六) 特權

(a) 兌換券の發行

幣制改革に際し發行を停止され、その發行準備金は中央銀行に接收されることとなつていたが、一九三六年一月二十日儲蓄部の併設を見て一億元を限度として發行を許可され法幣同様に行使を認められた。

(b) 農業債券の發行

發行總額は拂込資本金額の五倍を超過することができない。且つ貸付金總額を超過することができない。

(六) 政府の人事權管理

(a) 理事二十一名、監事七名中、財政部は理事九名、監事三名を任命する。

(b) 理事中より互選された常務理事七名中、財政部は一名を理事長として任命する。

しかしながら同行は元來軍事委員會という軍部の特殊勢力を背景として設立され、軍部及び黨部の機關銀行の如き役割を演じ、財政部の支配外に立つていたため、移管すべき發行準備金を引渡さず、規定額以上の兌換券發行を行いその無軌道ぶりに對しては一般の疑惑を買ふと共に、中國の通貨及び金融統制上前途に暗影を投じたのであつた。一九三七年二月二十二日財政部は同行に對し發行規定の遵守と農村貸付の積極的實行方を督促したが、結局は軍事關係並に農村救済のための公債買入を理由として新たに三千萬元の發行限度の増額を認可した。しかもこれをもつても問題の解決を見ず發行券はいよいよ膨脹して行つた。なお同行は同年四月二十四日總行を漢口から上海に移行している。同行は一九四二年七月一日から中國、交通兩行と共にその發行權を停止され、資本金を六千萬元に、九月十五日には更に一億元に増查され、政府系特許銀行として本來の任務を遂行することとなつた。

同行は戰前湖南、湖北、安徽、江南、四川、西康、雲南、貴州、陝西、甘肅等の各省にも積極的に新機構を設立したが、戰後には華北數省に進出した。一九四七年六月現在同行の縣合作金庫、農貸通訊處、農業倉庫等を含む分支部構は合計七百五十餘單位（その内分支行は二百八十餘）で従業員は四千六百八十餘名である。

現在の業務狀況は農村の生産増強と政府の輸出政策とに呼應するため次の四業務を行つている。

(1) 農業貸付 同行の主要業務であつて生産、加工、種子改良、耕牛、運輸、販賣、副業等の普通貸付及び茶、蠶

米等の特殊貸付とに分れるが、その貸付額はすでに一千億餘元に達している。

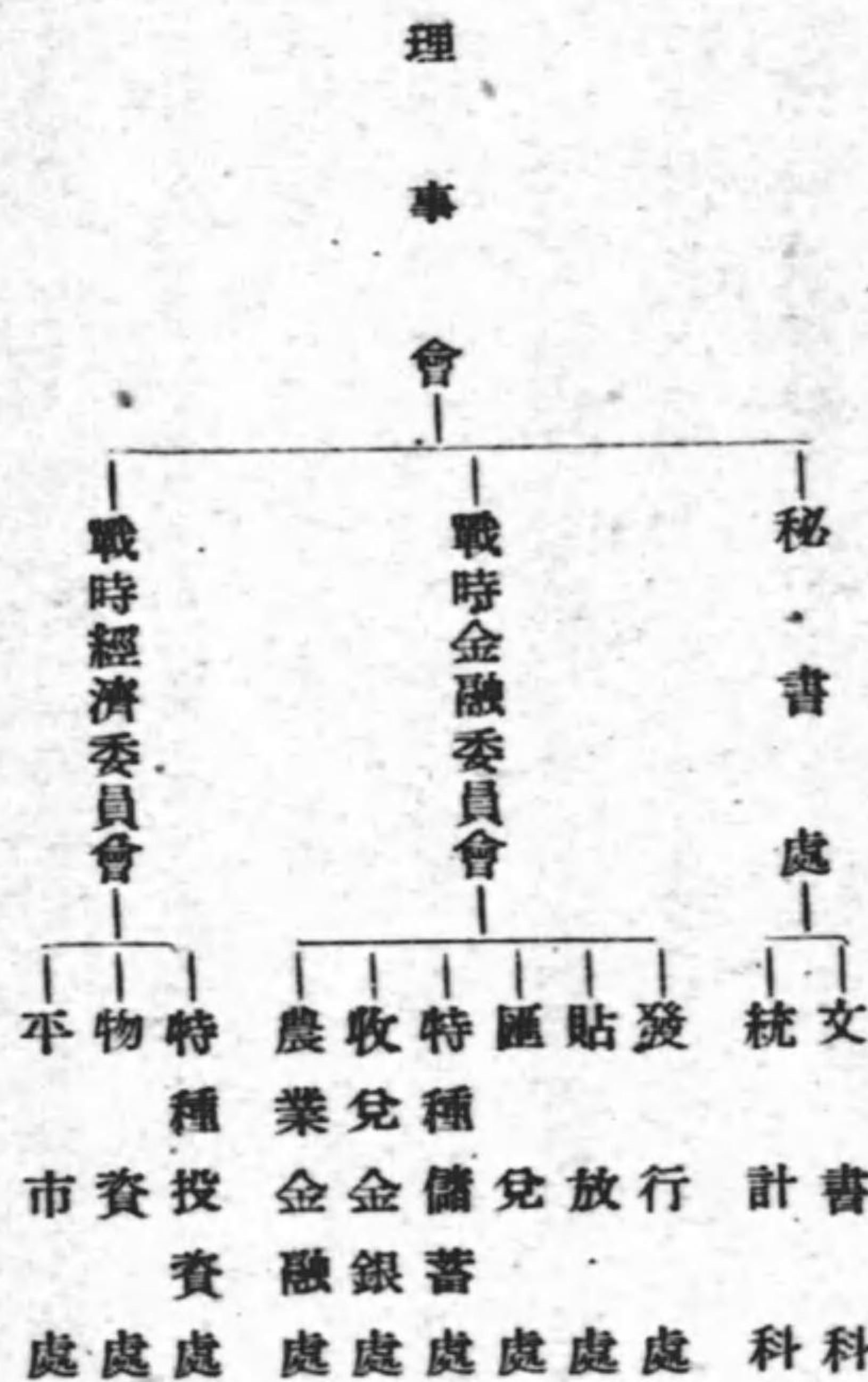
- (四) 土地金融 農地改良貸付、農地分配貸付等がある
 - (ハ) 普通銀行業務
 - (ニ) 移轄事項 綏靖區業務推進委員會を設置して、同地區の小資本貸出を取扱う
- なお同行は將來東北及び臺灣兩地への業務發展を期すると共に、一九四七年度の農業貸付目標を一兆元に置き、その成績向上に努力している外、米國との農業技術の合作を企圖している。

(6) 四行連合辦事處總處

一九三五年の幣制改革は中央金融機構を強化し、中央銀行を改組して中央儲備銀行を設立することを企圖した。これを實現に至らしめるべく一九三七年十一月の幣制改革二周年を期して極力準備工作中、同年七月日華事變は勃發しその計畫は挫折したのである。

日華事變の突發は金融市場に衝動を與え、各交易所の立會停止、預金の引出、外貨の思惑買、資金の逃避、換物傾向の増大等戰時金融恐慌を惹起した。政府はこの應急對策として各種の措置を講じたが全國的に行われ難かつた。かくて財政部は金融疏通、生産促進の上において中央銀行制度の不備を補充し金融機構を増強すべき必要に迫られ、一九三七年八月十八日全國金融の統制對策として中央、中國、交通、中國農民の政府系四行總行に連合辦事處總處を、各分支行所在の重要都市にそれぞれ連合辦事處を設立した。またこれと併行して政府系四行總行は農、鑛、工、商各業資金の調整と流通の圓滑化を圖るために、各分支行所在地に四行連合貼放(割引貸付)委員會を設立したのである。四行連合辦事處總處(略稱四連總處)は當初上海に設置されたが、その後戰雲の進展に伴い漢口に、更に重慶に

と移行したのである。一九三八年四月二十九日には熾烈な戰局に呼應して、國內金融の調整、農工各業の扶助、生産増強の促進を企圖して四行連合貼放委員會の機能を補強するため「改善地方金融機構辦法綱要」を公布した外、各種法令をもつて地方金融機構並に一般商業銀行等の統制強化等に努めて來た。一九三九年九月八日には中央金融機構の増強を圖るべく國防最高委員會をもつて「戰時健全中央金融機構辦法」を公布し、四政府系銀行をもつて新四行連合辦事處總處を組織し、これに四行連合貼放委員會を吸収して、戰時金融政策に關係を有する各種業務處理上の責任を負擔せしめた。四政府系銀行はその條例により規定する職權及び業務はそれぞれ獨立するものであるとしても、四連總處は戰時中央銀行としての機能を發揮したのである。すなわち(一)市場の安定、(二)資金の調整、(三)連合貸付、(四)發行調節等の業務を行う外、人事機構としては中央銀行總裁並に副總裁、中國、交通兩行董事長並に總經理、中國農民銀行理事長並に總經理及び財政部代表より成る理事會を設け、理事會には主席一名、常務理事三名を置き、主席は非常時期中、政府系四行につき適宜の措置並にその職權の代行を行ひ得るものであつて、舊組織に比して強力な戰時經濟政策を擔當することとなつた。その組織は次の通りである。



中國の戦時金融に安定が得られ、財政が充實し、また經濟上に發展を繼續し得たのは、實に四行資金の集中運用と連合業務の順調な遂行とに負うところが大きであつた。しかし國內經濟金融が安定を得た以上、恒久的な健全銀行制度の確立のため四行連合業務を劃分して業務の性質に應じ四行に個別的に處理させ、その專業發展に資せしめる必要から一九四二年五月二十八日四行專業化に關する舊計畫を實施に移すことに決定し、四連總處をこの監督執行の責に當らせることとした。この四行專業化に基く各種業務の劃分につき主要なものを擧げてみれば次の通りである。

(イ) 發行權の統一

一九三五年の幣制改革により、四政府系銀行の發行する紙幣を法幣と看做すこととなつたが、發行權をこのように四行が分擔することは運用の敏活を缺く嫌いが尠くないため、一九四二年春、四連總處は財政部と協議の上「統一發行辦法」並に「統一發行實施辦法」を作成し、七月一日からすべての法幣發行を中央銀行に集中することとした。また中國、交通及び中國農民の三行の發行及び未發行並に印刷中の紙幣の處理、六月三十日以前までに發行した法幣準備金の七月三十日までの期間における移交、三行の業務上における必要資金の調整、三行の發行設備の借用等を決定した。これにより同年八月以降中國の法幣發行は完全に中央銀行に統一された。

(ロ) 貸付の劃分と調整

日華事變勃發以來四行は連合貸付辦法を採用し、四行の比率を規定し、資金を分擔して來たが、四行專業化原則に基き、四行總處では「四行放款投資業務劃分實施辦法」を設け貸付の性質により各行の擔當を次の通り規定し、移交を要するものは八月末日までに處理させることにした。

(a) 中央銀行は政府機關の審査決定した稅收等を抵當とする借款並に中國、交通、農民三行及びその他の金融機關

に對する再割引、再擔保貸付、或は借越取扱及び政府が特別に認可した貸付等を處理する。

(b) 中國銀行は輸移出入貿易並に貿易と關係ある鑛工事業の貸付及び投資を行う。

(c) 交通銀行は交通、運輸、公共及び一般鑛工事業の貸付及び投資を行う。

(d) 中國農民銀行は農業生産、農田水利、土地金融、合作事業及び農具製造、農業改良、農産加工並に輸送販賣に關する貸付並に投資を行う。

但し右の場合は各行の單獨放出資金を移交するには及ばない。

(a) 當地にただ一行のみある場合或は放出資金先が專業範圍に含まれないといへ、同時に當地他行の專業範圍にも該當しないもの

(b) 短期間内に回収し得るもの

(c) 借入先が舊借入銀行と取引繼續の必要あることを申請したもの

(ニ) 農業貸付の劃分と調整

中國の戦時農業貸付は最初農民、中國、交通三行及び農本局により各個に行われていたが、一九四〇年春政府の農業貸付擴大による農業獎勵、農民生活の改善の政策に準じ、四連總處の監督下に中國、交通、農民三行及び中央信託、農本兩局で農業貸付の連合辦理を行い、集中統一を圖ることとした。その後四行專業化實施に伴い「各行局農貸業務交接原則」により農業貸付方針及び重要農業貸付並に投資がなお四連總處の審査決定を必要とする以外はその他の農業貸付業務はすべて中國農民銀行が一手に處理することとし、八月末日までに各行局の農業貸付業務及び農業貸付職員、機構、器具等一切を農民銀行に移行した。

(二) 國內爲替の劃分と調整

戰時軍政資金は最初四行で取扱われて來たが一九四〇年十月四連總處で國內爲替の集中審査決定が行われることとなつてからは同總處の決定により四行に割當てられた。四行專業化確定後は發行權の中央銀行集中に伴い國庫の取扱も當然同行が責任を負ふこととなり、軍政資金の取扱も中央銀行で統一處理することに規定されたが、同行の各地分支行が普遍化されていいたため同行分支行未設立地區では中國、交通、農民三行分支行に取扱わせることとした。

四連總處は一九四七年二月二十八日の理事會で經濟緊急措施方策に即應する金融政策として「民國三十六年度四連總處中心工作計畫綱要」を決定したが、その内容は生産援助、金融統制、物價平衡、爲替流通促進、貯蓄獎勵等の項目を含んでいる。これにより物價安定のため特に食糧、綿糸、綿布、燃料、食鹽、食用油、砂糖等日常必需配給物資の生産、輸送について優先的に援助を與える政府系四行二局の貸付政策を明示した。一九四八年三月十一日には理事會は「民國三十七年度農業及び土地金融貸款計畫」により十五兆元を限度とする農業金融計畫を通過させた。今日の四連總處は政府系四行の外、中央信託局、郵政儲金滙業局及び中央合作金庫をもその統制下においており中央金融機構をいよいよ増強して來てゐるのである。

四連總處裁定貸付割引額趨勢

年 別	新 規 貸 付	更 新 貸 付	計
一九三七—三九	五三二、三九六		五三二、三九六
一九四〇	六九六、四五四		六九六、四五四
一九四一	一、五四五、四三三		一、五四五、四三三

(單位千元)

一九四二	二、〇一二、八七九	六四九、〇四四	二、六六一、九二三
一九四三	九、五〇六、六一九	一、五八八、九二五	一一、〇九五、五四四
一九四四	二八、九九八、八一八	四、〇二五、七二九	三三、〇二四、五四七
一九四五	六三、一〇三、一二二	一二、七〇一、三八四	七五、八〇四、五〇六
一九四六	六九五、九一七、八八八	四二、九五三、七五七	七三八、八七一、六四五
一九四七(一—五月)	一、二〇四、三七九、八六五	九四、三〇五、八〇〇	一、二九八、六八五、六六五

なおその事業別貸付割合は一九四六年度においては鑛工業四四%、交通九%、鹽專賣事務一%、食糧六%、貿易八%、その他二二%であつた。

(7) 中央信託局

一九二八年の「財政整理大綱」中において外人經營當籤式貯蓄業排撃と國民貯蓄の獎勵の方針とが設定され、一九三四年には全國財政會議では「國民儲蓄及び公務員軍人儲蓄條例」の制定が議決された。これに基き同年六月、中央銀行に信託局籌備處が設立され、一九三五年十月一日、中央信託局が資本金一千萬元、全額中央銀行拂込で開業されたのである。中央信託局は中央銀行の業務、發行、國庫等の諸局と同じく、同行直轄機關で、行政上は同行に直屬しているが、會計は完全に獨立している。同行には中央銀行總裁兼任の理事長一名、常務理事三名、理事二名をもつて理事會を組織し、別に監事二名を置くが、すべて中國經濟界の有力者がこれに當つた。

同局の業務概要は次の通りである。

- (イ) 公務員、軍人及び富籤貯蓄業務
- (ロ) 政府並に同所屬機關、國營事業及び公共團體の委託購買業務
- (ハ) 公私機關並に團體等の書類、契約證書、證券、材料等の代理保管及び證券の元利代理支拂業務

- (二) 企業、預金、基金、投資、特約等各種信託及び證券買賣業務
 (ホ) 生命並に財産保險業務

なお中央信託局は一九三六年三月十六日資本金五百萬元をもつて貯蓄業務經營の附屬機關として中央儲備會を設立した。このように同局は外人經營在華貯蓄事業による利權の外流を防止し、中國の公共事業及び生産事業に資金を集中せんとする貯蓄事業統制が設立の主要目的であり、よく所期の目的を果して來た。しかしその後における同局の使命は寧ろ對外貿易上の輸出入統制にあるようであり、終戦後の管理貿易下にあつた日本貿易廳との間にもバーター・システムによる貿易を取扱つて來た。なお一九三七年八月公布の新經濟政策によれば同局はその輸出品の集荷活動を停止し、政府獨占貿易を民間業者の手に移すと謳つてあるが、その後も依然として政府貿易機關としての任務を果しているようである。

(8) 郵政儲金滙業局

一九三〇年三月交通部は郵政局における郵政と儲金を分割して前者については郵政總局を、後者については郵政儲金滙業總局を上海に設立した。一九三五年三月、政府は郵政儲金滙業局組織法を公布し、郵政總局の下に郵政儲金滙業局を置くこととした。同局は交通部に屬する機關で全國郵便局所の貯金、爲替、保險等の事務を擔當するものであるが、その業務の發展は迅速であつた。同局に集中された資金は主として農産貯藏品を擔保とする貸付に向けられて、農村救済金融の目的を果している。

(9) 中國建設銀公司

中國建設銀公司是當時の世界的不況に伴う國內金融恐慌の深刻化に鑑み、全國經濟委員會の努力によつて成立した

興業金融、拓殖金融または證券金融の諸形式による有力な長期金融機關である。すなわち一九三四年五月二十八日財政部の認可を得、五月三十一日發起人會、六月二日創立大會等を経て七月四日開業した。總公司是上海に設置され、資本總額は一千萬元であり、政府機關、上海銀行界及び歐米資本家等を背景として、公私各種の企業を援助し、農工商業を發展させ、事業に對する投資及び管理事務並に信託會社の一切の事務の處理を業務範圍とするものであるが、その樞要な地位は主として政府系要人によつて占められている。

なお同銀公司是子會社として揚子電氣、漢鎮既濟水力電氣、中米ゴム及び淮南鐵道等の各社を有している。

(10) 金融管理局

國府財政部は中國各地金融機關の投機及び非合法活動を防止して市場を安定せしめるために上海、天津、廣州及び漢口に金融管理局を新設することに決定し、その組織規程を行政院に提出中のところ一九四七年十二月二日行政院會議で可決された。

同月十二日には早くも上海管理局が正式に成立し、同局長には中央銀行稽核處々長李立俠氏が任命された。

金融管理局組織規程による同局の機構並に權限は次の通りである。

(イ) 金融管理局は差當り上海、天津、廣州及び漢口に設置するが、その他の重要都市には財政部が必要と認めるときに行政院の許可を得て設立する。

(ロ) 金融管理局は財政部の命により各地金融機關の検査監督及び檢舉等の事項を處理するが、その職掌は左の通りである。

(a) 國家行局庫の貸出、爲替送金、投資及びその他の交易の審査及び檢舉事項

- (b) 省市銀行、内外商業銀行錢莊、信託公司、保險公司、信用合作社及びその附屬機構、またはその他の金融業務を經營する會社商店の貸出、送金、投資及びその他の交易の審査及び檢舉事項
 - (c) 銀錢業連合準備委員會及び票據（手形）交換所の指導及び検査事項
 - (d) 政府機關及び國營事業機關の公金預入送金辦法違反行為の檢舉及び取締事項
 - (e) 非合法金融機構の檢舉及び取締事項
 - (f) 金融市場の動態調査及び報告事項
 - (g) 金塊、外國貨幣及び外國爲替の不法賣買の檢舉及び取締事項
 - (h) その他財政部が命令し、または中央銀行が委託する事項
 - (i) 金融管理局は職務を執行するため、同地の政府及び軍警機關またはその他の機關の協力により隨時各金融機關に對し報告の提供、帳簿、文書または倉庫の検査を行い得る。その際には逐次報告を作成し財政部へ提出すると同時に副本を中央銀行に送付する。
 - (ii) 金融管理局にはいずれも財政部が選任する局長、副局長（主任稽核兼任）各一名及び稽核十名ないし十四名、副稽核五名ないし八名、主任秘書一名、秘書二名ないし四名を置く。
 - (iii) 金融管理局と財政部または中央銀行、四連總處とは必要のとき相互に人員を融通し得る。
- 上海金融管理局は新設されるや直ちに金融管理活動を開始し、十二月十二日には闇取引の疑惑を持たれた上海市内の銀行、銀號及び錢莊の帳簿検査を斷行し、十七日には引續き非合法的に外國爲替の取引を行つていた市内一九五軒の錢莊に對し營業停止の措置をとる等その強壓政策のため、市場相場にも多分に影響するところがあつた。

(二) 特殊銀行

(1) 特別銀行

中國の新式銀行は名稱の如何を問わず商業銀行化の傾向にあり、資金は都市に集中し生産から離脱して産業に貢獻することは極めて薄弱であつたため、産業發展を圖るに足る特別銀行の不足が痛感されて來た。政府は民國初年日本の銀行制度を模倣して特別銀行條例を制定し、種々の特別銀行の設立を圖つた。すなわち農工業を振興する農工銀行實業の發達或は改良を補助する中國實業銀行、貿易金融並に内外爲替を取扱う興華滙業銀行、鹽業關係の金融を專業とする鹽業銀行、邊境金融と移民政策を取扱う殖邊銀行、儲蓄業務を專業とする儲蓄銀行、農牧、鑛工業等に對する金融を行う勸業銀行等がこれであるが、盲目的な模倣政策は當時の特殊事情に適合せず、その使命を十分果し得なかつた。

(2) 省銀行

省銀行の濫觴は遠く一八五二年にあり、今日に至るまで九十餘年に及び歴史は悠久であり、概して基礎は鞏固、資力は雄厚、信用も多大である。一九三五年三月には政府より省銀行設立に關する辦法が公布され、中國の各種銀行中中堅勢力となつてゐる。戦後の經濟建設を遂行すべき昨今、その擴充を圖ることによつて地方建設を指導援助すべきであるのに、政府がその存在の必要は一應承認したものの、その業務につき多くの制限を加え、その地位を重要視せずその發展に努力せずして、却つて規模狭小で無益な縣銀行の設置を企圖していることに非難の聲がある。しかしながら従來省銀行の中には地方割據の專制勢力となり終つたものもまた尠くなかつたのである。

(3) 縣 銀 行

政府は過去において縣銀行制度の發展につき確かに最大の努力を盡したようであり、將來もこれを中國金融制度の基層機構としようとしている。一九四〇年一月「縣銀行法」が公布され、地方金融を調整し經濟的援助と合作事業の發展に寄與させたが、一九四六年末までに設立された縣銀行は中央銀行稽核所の統計によればすでに總行三五六、分行一七五、計五三一であつた。しかし實質的には次のように所期の目的とは懸隔があるようであり、積極的設立の要はない上に、當局が他の重要工作をなさず縣銀行を銀行制度の基礎とすることを不當としている向が多い。

(1) 各行の資本は薄弱で、しかも顯著な活動を行つてゐるのは全く少數のものである。今一例を戰時中特に金融機構の發展した四川省にとつて見ても、その各縣銀行中資本金五十萬元以上のものは僅かに巴縣、南充、富順の三縣で他はすべて十萬元ないし二十萬元の規模であり、資金も滞り勝ちで金融調整といふような任務は到底負擔し難い實情である。

(2) その補導と運繋との中心を缺いてゐるため縣銀行總行が地方金融に積極的に努力しても終には多大の困難に逢着してしまふのである。

(三) 華 商 銀 行

(1) 概 説

中國側近代的銀行の發展は僅かに四、五十年の歴史を閲したに過ぎないのであるが、その間終始強大な外國系金融勢力の壓迫を受けつつ幾多の迂餘曲折を経て來たのであり、しかも幼稚な機構と薄弱な經營の下に華商銀行間の軋轢

も甚だしく、外國系銀行との對立にも協調なく、また國家の保護も期待されず、徒らに彷徨の過程を辿つたのである。しかしながら上海における華商銀行は同郷觀念または營業上の利害關係等からその意氣の相投するところ歴史的、個人的關係から大體次のような特殊の背景を有する隱然たる各系統があつた。

(1) 同郷關係によるもの

- (a) 廣幫(廣東幫)、(b) 潮幫(潮州幫)、(c) 閩幫(福建幫)、(d) 寧幫(一名角幫ともいふ。寧波幫)、(e) 紹幫(紹興幫)、(f) 鎮幫(鎮江幫)、(g) 山幫(蘇州洞庭山幫)、(h) 蘇幫(蘇州幫、廣義に解すれば山幫もこのうちに含まれる)、(i) 川幫(四川幫)、(j) 本幫(上海及び浦東幫)

(2) 營業の利害關係により團結したもの

- (a) 大四行——國家資本を代表する
- (b) 南三行(または中三行)——民族資本を代表する
- (c) 北四行——封建資本を代表する
- (d) 小四行(または甬四行)——國家資本の庇護を享ける

(2) 「三三三」

前述の營業の利害關係により團結した各行の内、大四行の後から參加した中國農民銀行を除く中央、中國、交通の三行による大三行の外南三行及び北四行を總稱して、俗に「三三三」(San San San) といふ、このビッグ・テンが上海の各種銀行、保險、信託、旅館、電機並に紡織工業、倉庫、交通等の諸事業をその支配下に置き、最も有力な華商銀行として中國金融體系の骨幹を構成してゐた。

(4) 大四行と小四行

大四行は政府系銀行であつて、國家資本を代表し中國側金融界の中心的存在として強大になり、民族資本を代表する南北兩派共、この勢力を壓倒することは到底不可能であつた。また四明商業儲蓄、中國通商、中國實業及び中國貨の四銀行は以前は紙幣發行權を享有し規模も相當であり、派別も相違していたが、一九三五年當時の金融恐慌に際して經營困難に陥つたので大量の政府株式を加えて改組して政府系銀行に管理され半官半民銀行となつたがこの四行を大四行に對し小四行という。

(4) 南 三 行

南派の上海商業儲蓄(一九一五年創業、資本金一千萬元)、浙江興業(一九〇七年創業、資本金一千萬元)及び浙江實業(一九〇九年創業、資本金八百萬元)の三商業銀行はすべて江蘇、浙江の土着資本家が合作設立した民族資本を代表する銀行であるが、かつては上海民間銀行のリーダーであつた中國銀行を擁して南四行といわれた。すなわち中國銀行がまだ政府の官株増資による改組の行われない以前は夙に上海を根據地に揚子江下流をその事業の中心とし商工業貸付業務を主體としたのであつて、これら諸行が江浙一帶の民族産業の育成發達に貢献するところはなるものがあつたのである。なほいわゆる浙江財閥とはこの南四行を骨幹とし浙江省籍の寧紹幫と江蘇省籍の山鎮本等の諸幫を附加したものを總稱しているのである。

(4) 北 四 行

北派の鹽業(一九一五年創業、資本金一千萬元)、金城(一九一七年創業、資本金七百萬元)、中南(一九二一年創業、資本金七百五十萬元)及び大陸(一九一九年創業、資本金一千萬元)の四行が勃興した當時の貸付對象は北京政

府であつて、政府側は借入に繼ぐ借入を求め、銀行側は高率の利潤を求めたのである。北京、天津兩地に發生した多數の銀行業者の大半が北京政府と運命を共にした中にこの四行は奇しくも殘存したのである。四行は封建資本を代表すると見られるが、或る程度まで民族資本性も保有していたのであつて、最初中南銀行名義の紙幣を共同發行し四行準備庫、四行儲蓄會、四行信託部等を設立して相互に連絡をとり漸次南方にその勢力を伸張して南派と角逐する段階に至り、遂には大陸銀行を除く三行がその總行を上海に移したのである。四行は常に合作連衡して幣制改革當時までには有力な地盤を有するに至つた。また國華銀行(一九二八年創業、資本金二千萬元)等を抱き込み内容を充實し、保險會社の買收併合により中國系保險業の巨星となると共に、この保險會社と密接な關係にある東萊(一九二三年創業、資本金三千萬元)、中國墾業(一九二九年創業、資本金一千萬元)等の諸行とも連絡を有し、その潜在勢力を擴張して行つたのである。

(3) 銀行業同業公會と連合準備委員會

上海の主要銀行は共同組合として一九一六年公布の銀行公會章程に基き一九一八年七月八日十三行により上海銀行公會を設立したが、一九三一年十月一日同業公會法に基き改組して上海市銀行業同業公會を成立せしめた。この同業公會は金融の調整、手形の決済等を目的とする營業上の機關として一九三二年連合準備委員會を開設した。元來これらの組合及び機關は中國、交通、上海商業儲蓄、浙江實業等の諸行を中心とする民間銀行の自主的なギルド組織的存在であつたが、中國、交通の兩銀行が政府系銀行となつてからは急速に中央銀行と關連を有するに至り、國家的統制力がこれらの機構にも及ぶこととなつた。一九四一年當時の上海銀行資金の約六〇%は「三三四」及び連合準備委員會に集中し、その内大四行二〇%、南三行一五%、北四行一五%、連合準備委員會一〇%と觀察されていた。

なお南京、杭州、天津、北平、太原、青島、濟南、漢口、長沙、重慶、成都、廣州、汕頭、瀋陽等の諸都市にも同様の機構が組織されている。

(4) 戦後の動き

戦後には多数の銀行が濫立し、中には特殊銀行を組織し、煙草、紙類、棉花、獸毛、陶器及び鐵鋼等各種事業の特殊金融を經營しているものもあるが、その過半数は不合法的に成立を見たものである。これがため政府は全上海銀行中商業儲蓄銀行七二行、錢莊五五店に營業繼續を許可し、殘餘の無經驗且つ不合法的な銀行の淘汰を斷行したのである。戦後の上海華商銀行は概して高水準にはないのであつて、その事業團體である上海銀行業同業公會の約二百に及ぶ會員銀行中一般商業銀行業務を營んでいる本來の法人組織銀行は五〇行にも満たず、戦時中設立された銀行は個人的または血縁關係の組織で一部の金融面を經營しているものが多い。老舖銀行一六行は中央銀行から外國爲替業務許可の指定を受けたが、今日正式商業銀行中であつて指導的地位にあり、且つ全國的規模による商業金融活動を遂行しているものは、上海商業儲蓄(一九一五年創業、資本金一〇〇萬元)、浙江實業(一九〇八年創業、資本金一〇〇萬元)、浙江興業(一九〇七年創業、資本金八百萬元)、金城(一九一七年創業、資本金七百萬元)、新華信託儲蓄(一九一四年創業、資本金一〇〇萬元)、聚興誠(一九一三年創業、資本金一〇〇萬元)、大陸(一九一九年創業、資本金一〇〇萬元)及び廣東(一九一六年創業、資本金七百餘萬香港ドル)の諸行といわれている。これらの各行の親友または協力者同志である大株主や支配人達で結成された新式華商銀行の纏つた特長のある民族資本的業者グループは、政府系銀行重役、外國系銀行重役及び錢莊業の指導的會員等のグループとは全く特異の存在であり、戦後上海金融の指導的地位を政府系銀行業者から奪取して新しい基礎の上に立たんと企圖している。

八年間の抗戦と通貨價值下落により華商銀行の資金は減少の憂目を見ている。この減少は銀行の貸借對照表についてみるに中國通貨では巨大な膨脹數字で隱蔽されているが、米ドルの項では中國の指導的商業銀行でさえ戦前の資金の十分の一以上も管理していない。約十年間の高進するインフレーション下においては各銀行が如何に嚴格に營業を行つても、商業金融の返済は貸出の場合よりも購買力が低下しているのである。しかもその資金と準備金との大部分は中國々庫債券に投資させられている上、この數年尖鋭な同業競争を行つている多數の銀行では營業費が甚だ高額につくので、一カ月一、二割の高利率にも拘わらず、その入費に充當するに十分なだけ収入を上げることが困難である。日本降伏後一年上海銀行の資力はなお著しく制限されていた。上海華商銀行の流通資金は一九四六年六月末には二千億元以上にはのぼらなかつた。

過去十年間上海の指導的華商銀行の株主は何ら配當等も受けなかつたが、その株式評價は中國經濟において民間企業擁護者として最も有力な地位を占めていたので甚だ高價になつた。戦時中中國近代銀行の指導權を握る浙江財閥の主要根據地は敵手に陥ち、その間「大後方」の競争者四川、廣東閩が勢力を得て來たのであつたが、戦後一カ年經過した一九四六年末までには浙江閩の再建はなり、その勢力は銀行業の中心地であつた重慶勢力並に黃金市場の昆明勢力を壓倒したのである。

一九四六年春における國家資本の南京復歸は同時に金融中心の揚子江下流地帯への復歸を意味したが、廣州、北平天津等では戦後の繁榮を求めることは上海以上の困難があるようである。上海銀行業者は一九四六年の輸入ブームに乗じてその優越性を強調した。四川銀行業者もやや遅れて中國の奥地で凋落する代りに揚子江下流地帯へその事業の大半を移行したのである。

華商銀行の現在の傾向は地方閥がその統一を失い、あらゆる閥の中での大銀行が浙江閥の指導下に、華商銀行の先頭に立つて全國的規模の金融網を構成することに努力しており、多數の大商業銀行は主要貿易都市にほとんど支行を設置しているのである。この十年間のインフレーション下にあつてその動きは妨げられて来たが、通貨安定と繁榮とが得られるならば、數年を出でずして若干の大銀行はほとんど國內の全地方に新支行網の擴張を促進させ得るのである。中國の錢莊はその傳統と機構とから操作の狭い分野に制限され、その地方の商業銀行との競争すら不能になつており、在華外國系銀行も今のところ天津、漢口、廣州等二三の主要貿易都市に制限されている。この際上海銀行業の將來は概して中國の經濟發展を容易ならしめるものとして國內銀行に重點が置かれるのである。すなわち治外法權の終熄と中央銀行の外國爲替管理制度により舊時代は結末を告げ、今後の新しい局面に期待が持たれるのである。

上海金融機關預金總額及び中央銀行に對する預金準備金 (單位十億元)

年 月	預 金		準 備 金	預金と準備金の比率
	當座預金	定期預金		
一九四六・一	三六	一	五	一五・七
" "	四一	一	七	一七・六
" "	五四	一	一一	二〇・〇
" "	八一	一	一六	二〇・〇
" "	九〇	一	一八	一九・九
" "	九八	二	一九	一九・九
" "	一四五	三	二九	一九・九
" "	一四六	三	二九	一九・九

なお本年六月における全國二十三區銀錢業預金及び準備金は次の通りである。

當 座	定 期	總 計	預 金 總 額	準 備 金	預金と準備金の比率
一九	一〇	二九	一八七	三九	一九・九
" "	一一	二二	一九八	三八	一九・〇
" "	一二	二二	二二九	三四	一四・七
" "	一九四七・一	二八	二九八	四四	一四・八
" "	二	三五	三六九	五九	一四・八
" "	三	五六	五九五	八七	一四・九
" "	四	七六	八〇六	一二〇	一四・八
" "	五	六一	六五六	九七	一四・八
" "	六	六九	七一四	一一一	一五・七

(中央銀行稽核處調)

なおこの内上海地區七一四、四六一百萬元、天津地區一一三、四三三百萬元、次に北平地區が続いている。

(四) 錢 莊

錢莊は兩替屋から發達し、中國最後の商業資本に屬する舊式金融機關として過去二百餘年の久しきにわたり強固な地位を占め、外國貿易開始後は開港都市において貿易金融の買辦的地位を開拓しつつ、票號の末期から新式華商銀行

の隆盛期までの間隙を充填して華商金融を獨占したが、漸次時潮に押流されて衰頹の一路を辿っている。

その大規模なものを錢莊業または滙劃錢莊（註）、普通のものを錢兌莊または錢兌業というが、この外下級の錢莊として煙草賣買の片手間に兩替を行う烟兌莊がある。今この内錢莊業と錢兌業について詳述してみることとする。

（註）滙劃錢莊とは清末以來彼等が滙劃總會という手形決済機關を設置しているためにこの名が出た。

(1) 錢 莊 業

最初の錢莊主要業務は兌換でありその範圍も狭小であつたが、商業資本と密接な關係を有していたのである。その後外國資本の進出に伴い外國資本は商業資本との取引に錢莊を利用し、その勢力扶植に努力したため業務も活潑となり、且つ預金貸付を主とするようになった。上海では一九一八年上海銀行公會（上海銀行業同業公會の前身）設立後約十年間は一般に順調な發展を遂げたものの、一九二四年の八九軒を最高として漸次減少したが、その資本額は次第に増大して行つた。一九四〇年には三九軒が存在した。元來小資本の錢莊は從來政府筋の官金並に富豪の大口預金を擁して巨額の貸付を行つていたのであるが、一九二七年頃より中國經濟の資本主義化に伴い目覺しい發展をして來た新式華商銀行のためその資金の源泉を切斷され、漸次その勢力を蠶食されて行つた。しかもその組織は個人經營または組合組織に過ぎず、加うるにその貸付は擔保に重きを置かず専ら對人信用によるものであつて、その極度に擴張された信用は天災、不況等の都度相當の打撃を蒙つたのである。更に一九三二年における上海銀行業同業公會連合準備委員會と翌年における手形交換所との開設は手形交換を錢莊の手より奪い自然銀行の錢莊に對する預け金は引上げられ、兩者の關係は疎遠化し、對立競争を激化したのである。かくして外國銀行に對する錢莊の從屬により構成された從來の中國金融市場へ新たに割込んで來た新式銀行のため、抵抗力の弱い錢莊が壓倒されたのも當然の歸趨であり、

その近代的金融機關としての存在意識が漸次減殺されて行つたのである。

一九三三年の廢兩改元の斷行により錢莊は次のような三重の打撃を蒙つた。

- (イ) 大口商取引の貨幣單位たる兩が廢止された結果、決済用具たる莊票が不必要となつた。
 - (ロ) 莊票の發行準備として所有していた多額の馬蹄銀の對銀元相場の下落により損失を蒙つた。
 - (ハ) 主要業務の一であつた兩と元との兩替が消滅し、その相場變動による利益がなくなつた。
- 更に一九三五年の幣制改革の斷行で銀元が管理通貨となつた結果錢莊が蒙つた打撃は次の通りである。

- (イ) 銀の賣買禁止の結果、重要業務の一を失つた。
- (ロ) 幣制改革に伴う投機抑制政策奏效により錢莊の投機賣買を封じられ、間接にはその顧客を奪われた。
- (ハ) 通貨の統一により内國爲替の開きが消滅して賣買の利益がなくなつた。

このように逆境に陥つた錢莊は更生計畫に必死となつて錢業手形引受所の設置の外、多年の經驗と地盤とを生かして營業の銀行化を圖り小規模の新式銀行として更生の道を辿ることとなつた。

(2) 錢 兌 業

錢兌業の草創期にはほとんど烟兌業と同様で各國貨幣を兌換する以外に烟紙、雜貨業を兼營していた。上海においては第一次世界大戰當時約二〇店があつたが、外人渡華の盛況を見るにつれて俄かに營業も隆盛を極めた。その特長は次の通りである。

- (イ) 上海の華人、外人の混住地に發生し、土着資本であつてもその利益は外貨にあつたため外貨に對する依存性は極めて大である。その業務は時代により變化しているが、兌換就中外貨兌換を專營しているほか、地金銀の賣買、手形

割引、公債株式取引等の業務を営む。

(四) 生産事業に参加しない小規模経営であつて商工業貸付及び一般の預金業務を取扱わない。
 (ハ) 機運に乗じて興隆する顯著な機會性は社會經濟の激變の度毎に特殊の利益をもたらす射倖性によるものであつてその組織も個人資本、合資、有限株式等の區別があるが、統一された規約または店名の稱呼はない。

(ニ) 上海市錢兌業同業公會は一九三八年九月福祿壽喜會員規定標準案を決議し、資本金で標準を定め、資本金二萬元以上を福、二萬元以下一萬五千元までを祿、一萬五千元以下一萬元までを壽、一萬元以下を喜とした。

一九四〇年末における錢莊、銀號の數は一一一であつて、福字が五八、祿字二、壽字三八、喜字一三となつてい

る。
 銀號は錢兌業とは元來差別があり、銀行に類似した少額の預金及び貸付を営むほか、國內爲替の經營が主要業務であつた。錢兌業公會に加入後は營業方針を改めて兩者一體となり、錢兌幫ともいわれるが、外國爲替、金條の投機賣買を專營とするようになった。

(3) 戦時中の動き

戦時中の錢莊は後方に移動しない政府高官、銀行家、豪商、俄成金等の巨額の遊資を吸収し、金條、外貨、外國爲替等に對する不生産的投機活動に従事して、上海の畸形的な繁榮の中において勃興發展した。特に錢兌業は銀行、錢莊業と異なり、公然と爲替市場、金業、法幣等の闇市場を支持し、從來の窓口の小取引による小利に安んぜず、巨額の賣買取引をなし投機に従事したのであつて、漸次その指導的地位を獲得し、その驚くべき超過利潤は直接物價を高騰せしめると共に、一般人民の生活難を加重なものたらしめた。

(4) 戦後の動き

戦後上海の錢莊の數は數百にのぼるが、資本が雄厚で正式華商銀行と伍して行ける規模の業務を営んでいるものは約二〇に過ぎない。この錢莊は現在でも地方的であつて、全國的ではなく、その重要性は一都市において、または一都市と他の一地方との間の金融業務を営んでいるが、國內爲替送金、金條賣買媒介及び或る種の商品取引の融資等にその活動分野を制限されて來た。政府が一九四〇年錢莊を株式會社組織として登録させるまでは、新式華商銀行のよ

うに組織化されないで常にただ三年間繼續の組織を構成しており、薄い拂込資本金は無限責任者である組合員の莫大な個人的または合同の資力で維持されて來た。當時の錢莊は金融の調整、生産の増強、農村の援助等の重任を負つていたが、事業の失敗とか、没落等により資産が減少し、信用も喪失した際には甚大な影響を蒙つた。また資本主が死去した後は資産も分散してその營業を繼續しなかつたり、資本を減少してその收縮を圖つたのである。現在錢莊は一律に有限會社組織に改められたものの、かつての特質はその固有の傳統の中に滲透していて、原則を改訂せず舊習を墨守している上に、進取性、計畫性に缺けその業務の擴大を推進することは不可能である。またこの錢莊はその友人を保證人とする個人的貸付に應じてその擴張を圖つており、しかも物質的保證よりも個人的信用に重きを置いてい

る。十年前錢莊は急激な凋落に直面し、間もなく絶滅する運命にあるように思われたが、戦争の末期において通貨價値の下落に伴う混亂がその特有な制度による有利な基礎を開拓し、失墜した地位の一部を回復し、その投機的天才のものをいわせ、脱胎換骨して商業銀行に一變した。その歴史の長いものは清の同治(一八六二—一八七四)年間に成立のもの一、光緒(一八七五—一九〇八)年間に成立のもの七、一九二〇年までに成立したもの二五、一九三〇年までのもの五が含まれている。

このように錢莊は潮流によく迎合して環境に適應しており、後より發展した銀行業に比較すれば一般銀行が商工業の内部組織、人事動態、營業範圍等についての調査が簡單且つ不正確であるのに對し、錢莊は常に密接な連繫をもつて調査して來ているため、その記録は精密でその觀察も詳細を極めていたのであるが、反面銀行業に多々及ばぬ點がある。すなわち人事的にもその採用者は皆資本主の親族でなければ支配人の同郷關係者からなっており、徒弟關係ともいふべき強い團結はあるとしても、經營方法は銀行のように科學的でなく、學識、經驗者も少く研究改善等も餘り行われない。また錢莊はかつては舊式帳簿を使用し、決算報告も年末一回報告をするが、平常は内容が極秘にされ、職員がその間自由に資金を流用するような悪習があつた。この點は最近では漸次消滅して行つたのであつて、財政部が銀行會計制度を統一してからは錢莊も新式會計に改め、日記帳を主要帳簿としており、先進錢莊は傳票代替制を採用している。錢莊の主要業務の一つである貸付が今次の修正「銀行法」により貸付限度額が規定されたためその傳統的習慣からみれば低過ぎるところに抑えられたようである。

一九四八年一月財政部では名稱統一のため各地銀號を錢莊と、銀公司を銀行と一律に改稱するように指令を發した。

(五) その他の金融機關

(1) 保 險 業

保險業は世界列強の對華進出に附隨し、上海、香港及び廣州等の通商港を中心として沿岸の大都市、各鐵道沿線、江河流域工業地區及び貨物集散地へと漸次全國に擴大して行つた。しかも創業當初においては中國の民族資本は微々たるもので四十年前以前までは全く資本雄厚な外國商社の獨占を許していたのであるが、その業務の種類は先ず海上保

險から火災、生命等の各保險に及んで行つた。華商公司は一九一五年前後の第一次世界大戰當時各國が國內問題に忙殺されて對華投資を閉却し、他方中國の商工業が勃興顯著なものがあつたとき以來發展して行つたのである。しかし主要華商公司はすべて銀行が高度の利潤追求のために投資設立したものである。しかも各銀行の保險業投資は不動産、有價證券等の投資に比較すれば遙かに少額であつて、資力は薄弱で資本金五百萬元以上のものは一社もない状態にあり、活動範圍も制限されていた。國營保險機關としては中央信託局保險部が一九三五年設立され、國營事業、鐵道及びその倉積貨物の火災保險の引受けを主要業務とし、その他船舶、海上、海陸連運、郵便、自動車、エレベーター、生命、傷害、航空等の各保險を營むが、強力な再保險機關と民營保險監督機關の機能を保持し得なかつた。しかし戦後においては一九四五年に一億元、一九四六年に五億元に増資し、各華商公司と再保險の契約を結んでいる。外商主要公司はほとんど上海に集中し、英、米兩國が最も強大な勢力を占めていた。その他諸國の進出も顯著ではあつたが、その營業範圍は自國を對象とするものが主であつた。これらの外商公司の大半は本社をそれぞれ自國內に有し、各國の資本市場と密接な連繫を有しており、その營業總數量は華商が彼等に與えた再保險を含めて華商全體の營業總額の數倍に當るのである。

いま戦前の各國在華主要保險會社の設置狀況を見れば次の通りである。

資本關係	社數	代 表 社 名
中 國 系	三〇	中央信託局、太平、中國、永安
英 國 系	七六	倫敦 (London Assurance)、保安 (Union of Canton)、老公茂康記 (Commercial Union)、皇家 (Royal)
米 國 系	二三	哈得富爾 (Hartford)、好望 (Home Fire of New York)、北美州 (Ins. Co. of North America)

日本系	一六	東京海上、三菱、日本火災、神戸
ドイツ系	一一	保餘 (National General von Stettin) 連合 (Allianz u. Stuttgarter Verein)
フランス系	八	茂豊 (Labeille Fire of Paris) 巴黎連合 (Union of Paris)
オランダ系	一一	一八四五 (Netherlands Ins. Co. Est. 1845)
オーストラリア系	四	保宏 (New Zealand)
カナダ系	三	哈利法克期 (Halifax of Nova Scotia)
スイス系	二	瑞士 (Zurich of Switzerland)
イタリー、ノールウェー、デンマーク、インド、フィリッピン及びウルグワイ各系	各一	

今次戦争は保険業の發達した各地區の工場倉庫その他の建築物を破壊したため、保険業は痛烈な打撃を蒙り、廣大な市場が消滅し、各業者は業務の廢止または縮小を餘儀なくされた。彼等はその不振を打破するために營業收入ばかりでなく、準備資金をも投機に運用し巨利を博したのである。また日本軍はその占領各都市に一社專營主義を採用したため、各業者は萬難を排してその權利獲得運動に奔走し巨額の利潤を擧げたのである。

戦後においては後退を餘儀なくされた外商公司は、内戦と經濟危機の不安から中國への復歸を躊躇しており、すでに復歸したのも大口の契約は回避する等概して警戒的態度に出ている上、活動が制約されているので目下主として再保険に限られている。敵性會社は當然姿を消し現在活躍しているのは英米系の會社である。中國系各社は戦後いよいよその基礎の強化を圖つて來たが、外商公司の活動を好まずその競争を惧れている。しかしその資力の點では火災並に海上等の保険には進出できる餘力がほとんどない。もつとも海上保険は貿易の停頓、梗塞により不振を極め、火災保険は従來の外貨建契約が一九四七年二月に禁止されたため各社は契約を回避しているのである。

(2) 合作社と合作金庫

中國における合作社運動はすでに清末、民初にその萌芽を見出し得るが、一九二四年設立された河北省の信用合作社を嚆矢とするといわれている。この間五四運動の社會、文化、思想に及ぼした變革と共に、合作思想も一種の社會經濟改革運動となつた。しかし封建割據勢力の下にあつてはこの運動も順調な發展を見なかつたが、國民政府が北伐の成功に伴い合作運動を七大運動の一つとして採用してからは、全國にわたり積極的に行われるようになった。

特に一九三一年以後當時の深刻な農業恐慌救済の手段として盛んに提唱實施されるに至つた。しかし當時は制度上何ら統制あるものでもなく、各省市毎に暫行合作條例を公布してその促進を圖り、中央政府においても軍事委員會が河南、安徽、湖北、江西四省の共産軍討伐に際し、その回復地區に對する一種の農業政策として合作社を組織させる一方、全國經濟委員會が農村經濟建設手段としてその積極化を圖つた程度であつた。一九三四年三月一日には「合作社法」が制定公布され、翌一九三五年九月から實施されるに及び、從來の各省における各種の合作關係法規が無効とされた。同年十一月に政府は中央における合作行政機關として實業部の下に合作司を新設した。かくして全國の合作社は漸次中央の統制下に置かれるようになったのである。いま逐年發達を遂げて來た合作社の數を見れば一九二四年には九に過ぎなかつたが、一九二七年には一二九、一九三二年には五、三三五、一九三五年には二六、二二四、一九三六年には三七、三一八と顯著な動きを示して來た。

中國の合作社はその産業機構からいつても、またその運動が農村の振興を目的とする農業政策の手段として發展した過程から見ても、創設以來農村協同組合が壓倒的地位を占め、その構成員も農民が大多數を占めている。またその業務種類別は一九三六年末において信用合作社の五五・三%を筆頭に、以下兼營(二八・二%)、生産(八・六%)、運銷(六・三%)、消費(〇・八%)、供給(〇・七%)、公用(〇・一%)の各合作社が続いている。地域的分布は河北、山東、安徽、江蘇の順である。このような合作社の顯著な發展は近代銀行の農村貸付が合作社を通じて行われた

ことによる。すなわち戦前における合作社に對する貸付額は中國農民銀行が二四・一%、中國銀行が一二・三%、その他の近代銀行が一九・九%を占めたのであつた。

なお一九三六年九月十五日國民政府は衰頹の極にあつた農業振興策として農業指導機關の設置、國內産業市場の整備、農村共同組合運動の助長、農村金融の流通等を行い、蠶糸、棉花、煙草等の生産資金並に水利資金の貸付等を目的として、實業部及び民間銀行の共同組織による有力機關、資本金三千萬元の農本局を設立した。農本局は農村合作社、農業倉庫その他に對する融資を行い、各種農業金融庫の中央機關として首都に本局を、各省市縣の重要地點に分局を設立したが、その出現は商業高利貸資本の桎梏に悩む(註)中國農村方面から機宜を得たものとして期待され

(註) 當時農民の借入先としては商人、地主が各二五・〇%、富農が一八・四%を占めたのに比し、合作社は僅か二・六%に過ぎなかつた。

實業部は一九三七年これら合作事業資金の疏通を緊急視し、全國的合作金庫網の樹立計畫につき檢討を加え、五カ年計畫で先ず地方下級機關の設立に着手し、漸次中央上級機關に及ぼすべく概要次のような成案を決定した。

(1) 金庫の種類

- (a) 中央合作金庫 省合作金庫、行政院直轄市の合作金庫及び全國を營業範圍とする合作社連合會の出資により組織し、資本金は最低一千萬元とし、實業部の監督に服する。
- (b) 省合作金庫 縣市合作金庫及び省を營業範圍とする合作社連合會の出資により組織し、資本總額は最低一百萬元とし、省以上の合作主管官廳の監督に服する。

(c) 行政院直轄市合作金庫 該区域内の信用合作社及び各種の合作社連合會の出資により組織し、資本總額は最低一百萬元とし、行政院直轄市以上の合作主管官廳の監督下に置く。

(d) 縣市合作金庫 該区域内の信用合作社及び各種合作社連合會の出資により組織し、資本總額は最低十萬元とし、縣市以上の合作主管官廳の監督下に置く。

(2) 金庫の主要業務

(a) 預金、(b) 借款、(c) 貸付、(d) 爲替、(e) 代理取立及び代理支拂。

なお中央金庫は省合作金庫、行政院直轄市合作金庫及び全國を營業範圍とする合作社連合會に對し、省合作金庫は縣市合作金庫、該区域内の信用合作社及び各種合作社連合會に對し、また縣市合作金庫は該区域内の信用合作社及び各種合作社連合會に對しそれぞれ貸付を行うことができる。

(3) 設立順序

農本局は中央金庫の設立を見るまでその業務を代行し、金庫網樹立計畫の遂行に當り、先ず全國各縣市における合作金庫の普及に努め、その完成を俟つてその出資により省合作金庫を設立、次いで中央金庫の組織に着手する。實業部は右の計畫に基づき一九三七年二月「各縣縣金庫章程準則」を制定した。

なお戦前中國の農業金融機關には次のようなものがあつた。

(4) 全國的性質のもの

中國農民銀行、中國銀行、交通銀行、中央信託局、農本局、商業銀行、華洋義賑會、郵政儲金滙業局、合作事業管理局等

(四) 省單位のもの
 省農民銀行、省合作金庫、各省地方銀行、各省合作機關、省農業改進機關、省農民貸款所等
 縣單位のもの
 縣農民銀行、縣市合作金庫、縣政府、縣鄉商業銀行等

(二) 農民組織

合作社、互助社、農民借款協會、水利協會、改良社、農倉、農合等
 戰時中においては物價の高騰につれ農産物と工業品の相對價格が懸隔し、農民の購買力は衰退して、農村經濟に及ぼす影響も甚大であつた。政府當局は一九三九、四〇の兩年にわたり大いに農村貸付を擴大し、合法的に登録されている合作社をひとしくその對象としたため、合作社並に合作金庫は一時に勃興した。しかし一九四二年に至りその貸付を收縮したため、合作社は政府の支援を失い資金源を斷絶され、業務も漸次萎縮して行つた。一九四七年九月二十七日財政部は信用合作社の小切手發行を禁止する命令を出したが、監察委員は當局に對し、このことは貸付並に預金を主要業務とする信用合作社にとつて不當であるとして、その命令撤回を主張した。

國民政府は一九四六年十一月一日農本局に代つて戦前からの縣案であつた中央合作金庫を設立し、合作社組織の健全な發達を期するために資金を放出し、社員預金を吸収してその運営を圖ることになつた。更に同金庫は一九四七年二月二十五日信託部を増設して、貸付資金の運営に資することとした。政府は同年二月二十二日その中樞機構として中央合作指導委員會を設立した。中央合作金庫は現在政府系四銀行の組織する四行連合辦事處總處に加入し國家金融機關の一つとして運営されているが、その分掌は秘書處、會計處、設計處、輔導處、業務部、信託部の四處二部となつてゐる。

中央合作金庫が一九四七年十月二十六日開催した庫務會議の報告によれば、一年以内に分支機構三十餘庫を設立し各項の合作貸付を行う豫定であるが、各省合作事業の發展情勢については少數の機構はまだ不満足の状態にあるといつてゐる。しかし中央合作金庫は國家金融機關としての特殊任務を負うものであり、合作金融の調整、合作事業の發展を圖り苦痛に満ちた現在の人民生活を改善するものであるとしてゐる。

(3) 典 當

中國の質屋はその規模により典、當、按、押、質及び代當の各種があるが、その中設置數の最も多いのは當である。資本額は大體一萬元前後であり、出資者は主として農村における商人、地主等である。その利率は大體三、四分、期限は一年ないし一年半が最も多い。質物は衣服、貴金屬、寶石類が最も多數を占めてゐる。

三、舊淪陷區における金融機關

(一) 戰時中の動き

日華事變が進展するに伴い蒙疆地區に蒙疆（一九三七年十二月一日設立、資本金一千二百萬圓）、華北に中國連合準備（一九三八年二月十一日設立、資本金五千萬元）、華中に中央儲備（一九四一年一月六日設立、資本金一億元）の諸行がそれぞれ中央銀行の性格を帯びて設立された。一方日本系銀行である橫濱正金、朝鮮、臺灣、三井、三菱、住友上海、漢口、天津、濟南等の諸銀行の外、日華合辦の華興商業銀行（一九三九年五月一日設立、資本金五千萬元）等

は漸次勢力を奥地にまで擴大した。太平洋戦争勃發後は上海、天津等の租界内に隠然たる勢力を有していた英、米、白、蘭等の外國系銀行並に政府系四行の接收により日本系銀行は横濱正金銀行をその主導的地位に立てて淪陷區金融機關の中心的存在となり、その經濟樞要部門の大半を掌握し、軍の作戰費並に日本側物産收買資金を中國連合準備銀行または中央儲備銀行から借受けて放出したのである。なお租界内に残存した諸銀行の中、中央、中國農民の二行は敵性顯著の理由で清算され、中國、交通の二行は儲備、連合二行の傘下にあつて再開を許された。(註)政府系銀行を始め主要銀行の多くは本店を「大後方」に移行し營業を繼續したが、上海商業儲蓄、浙江興業、浙江實業、金城、大陸、鹽業等の大銀行を含む淪陷區の諸銀行はすべて汪政權南京政府に登録し、その監督下に置かれた。しかして中國系の銀行並に錢莊は一九四二年十二月「上海銀錢業營業暫行辦法」により太平洋戦争勃發前の預金の封鎖制度を實施し、日本系銀行も一九四三年一月から同様封鎖預金勘定を設定した。

(註) 中國、交通兩行は華北では一九四二年二月再開を許されたが、同年九月華中에서도兩行が再開するに及び、同年十一月華北の兩行はその關係を調整して華中兩行とは別個の新銀行として總行を北京に置き、華北政務委員會と中國連合準備銀行の折半出資(中國六百萬圓、交通五百萬圓)により再出發した。

淪陷區發券銀行の銀行券發行高は特に一九四四年以來戰局の進展に伴い急膨脹を來たし、悪性インフレーションを惹起したのである。淪陷區各地の通貨發行高を見れば次の通りである。(註)

年	備	連合準備	蒙	疆
	百萬元	百萬元		百萬元
一九四一年末	二八〇	九六六	一一六	
一九四二年	三、六九六	一、五九二	一四六	
一九四三年	一九、一五〇	三、七六一	三七八	

一九四四年	一三九、六九八	一三、八四〇	一、〇六七
一九四五(八)	三、三二一、六九三	一三、二六〇	二、七九八

(註) 華興發券發行高は一九三九年五月末(創立當月)二一八千圓、一九四〇年末(發行權停止直前)五、六五五千圓と甚だ僅少であつた。

(二) 戦後の整理

日本の降伏に伴い中國は舊淪陷區を回復し經濟統一工作に乗出し、錯綜を極めた通貨金融の統一整理に當つたが、一九四五年九月十四日には中央儲備銀行を、十月十八日には中國連合準備銀行をそれぞれ接收完了した。これよりさき九月十一日には南京地區における法幣と儲備券の併用を認めたまま法幣一對儲備券二百の相場を設定し、九月二十七日には、十一月一日から翌一九四六年三月までにこの割合をもつて全面的交換を實施する「偽中央儲備銀行鈔票交換辦法」を公布した。更に十月二十四日には中央銀行を始め江蘇、浙江、安徽三省内の中國、交通、中國農民及び各省銀行を回收機關に指定し、一人一回最高五萬元までを交換することとしたが、その後回收期限は五月末まで延長された。また連銀券については十一月二十一日一對五の割合で翌一九四六年一月一日から四月末までに回収を實施することとしたが、その後六月末まで延期された。また蒙銀券の處理は中共軍によつてなされた。

政府は同時に金融機關の全面的整理を斷行することとした。すなわち十月十七日には收復區の日本系銀行を接收すると共に華商金融機關については銀行一九五、錢莊二二六、信託公司二〇のうち舊南京政府に登録したものは營業停止並に清算を命じ、債權債務を整理して法幣建に切換えた後、健全なものは再開を許可した。また戦前より經濟部許可の下に營業を行つた銀行七三、錢莊一六、信託公司六のみその營業繼續を許可した。なお保險會社については營業停止、清算五三のうち四三が再開を許可された外、一九四五年末までに二四が新設された。清算銀行預金中日本側及

び舊南京政府機關、官吏所屬のものは凍結の上、處分されることとなつた。また清算銀行に對する多數の小銀行業及び工場、商店の債務は償還されなかつた。在華外國系銀行については國民政府が接收後正當原所有者に返還されたのであつた。

四、外國系銀行

中國における外國系銀行の發展は對華貿易の進展に呼應して、中國の諸貿易都市に相次いで設立され、中國側近代的銀行業がまた勃興を見ない間に、すでに中國金融市場において三、四十年の長期にわたり、鞏固な地位を築き上げて來たのである。すなわち當時在華經濟勢力の最も雄厚であつた英國は一八四八年東方銀行 (Oriental Banking Corporation) (註①) 上海支店を設立したのを嚆矢として、一八五七年には麥加利銀行 (Chartered Bank of India, Australia & China) 支店を、一八六七年には滙豐銀行 (Hongkong & Shanghai Banking Corporation) 支店をそれぞれ上海に設置した。その他諸國の進出も顯著にして、上海開港後僅か三十年を経た一八七三年までに上海一市だけに設立された外國系銀行は十二行の多數に上つてゐる。一九〇〇年までには中國側近代的銀行は一八九六年創立の中國通商銀行一行であつたの對して、各國主要銀行としては前記麥加利、滙豐兩行の外、一八八九年設立のドイツ系德華 (Deutsche Asiatische Bank) 一八九三年設立の英國系有利 (Mercantile Bank of India) 及び日本系橫濱正金、一八九六年設立のロシア系の華俄道勝 (Banque Russo-Chinoise) (註②) 及び一八九八年 (香港支店は一八九六年) 設立のフランス系東方滙理 (Banque de l'Indochine) 等の諸銀行が上海に進出してゐた。

(註) ① 東方銀行は一八四五年香港に設立され一八九三年停業した。

(註) ② 華俄道勝銀行は一八九六年日清戰爭勃發當時、滿州地方の商業開發のためロシア人が清朝政府と合辦で設立した銀行であるが、一九一〇年露國北方銀行 (Banque de Nord) と合併して俄亞銀行 (Russo-Asiatic Bank) と改名した。その後ロシア革命勃發による帝政覆滅のため、一九一八年その後援者であるフランス人の手に歸し、本店もペトログラードからパリに移されたが、その營業成績は舉らず中國から姿を消して行つた。

その後一九一三年までに上海に支店を設立した外國系主要銀行は、米國系の花旗 (National City Bank of New York) (註) ベルギー系の華比 (Banque Belge pour l'Étranger)、オランダ系の荷蘭 (Nederlandsche Handel Maatschappij, N. V.)、日本の臺灣等の諸銀行であつて、當時設立された華商銀行の中國、交通、浙江興業及び四明商業儲蓄等の諸行と比較すれば、數の上からも實力の點でも遙かに優越してゐた。

(註) 花旗銀行は最初原名を International Banking Corporation としたが、一九二七年 National City Bank of New York と合併され同支店となつた。

外國系銀行は最初は單なる貿易金融機關に過ぎなかつたのであるが、特に中國における政治的腐敗を逸早く觀取しその間隙に乗じて各種の借款並に救済等を取扱うようになり、その國家財政と密接な關係を持つに至り、漸次政治、經濟の全般を支配する實權を掌握するに至つた。就中日清戰爭による中國の敗北、辛亥革命による政治費の膨脹と外債への依存等は一層その傾向を助長し各帝國主義的對華經濟政策の主要用具として半植民地的中國經營の中心機關となり、中國における經濟勢力の伸張は大體これら金融資本の強化によつて遂行されたのである。

英國は夙に揚子江一帶並に華南に實權を握つてゐた。また第一次世界大戰の間隙に乗じた米國及び日本は對華投資に、貿易の擴充に急激な發展を遂げ、それぞれ多數の銀行を設立したが、その他の諸國の進出も顯著であつた。特に日本は三十餘行に及ぶ多數の銀行を擁したのであるが、これは決して日本系銀行の在華勢力が特に雄大であつたので

はなく、正金、臺灣、朝鮮等の數行を除けば概して資力は弱小であり、その營業範圍も一地方に限られていたのである。九カ國五十餘行の外國系銀行の中で最も有力な地位を占めたのは英國系滙豐銀行であつて、他行が内外市場から高利を顧みず資金の借入れに腐心していたのに反して、英本國の龐大なバックを有する上に中國關稅の大部分を條約により保管する等の特權を有していた結果、手許資本も甚だ潤澤であつた。なお戰前には事實上中國の中央銀行の實力を具有し、中國側銀行のみならず各外國系銀行まで同行に準備金の一部を預入していた上、外國爲替の取引はすべて同行を親銀行として行われたのであつて、同行は文字通り中國の政治經濟を支配する地位に立つていた。

第一次世界大戰を契機として中國新資本家階級が勃興し、關稅、鹽稅、預金等の外國銀行から中央銀行への移管、中央銀行の爲替統制並に外國銀行兌換券發行額の減少等により、外國銀行の在華勢力を漸次排除するに至つた。しかし列國の對華特殊條約並にその活動根據地としての租界の存在及び資本の壓倒的優位性のような基礎條件の嚴存は、外國系銀行に本質的變化をもたらし得なかつた。従つて國內政治紊亂の際はこの治外法權的立場において自由行動をとり得たばかりでなく、多額の中國人預金の安全な逃避場所として極めて變則的繁榮を繼續して來たのである。

すなわち戰前の外國系銀行は前述のように種々の不平等條約の保證により、また各種の對華投資を通じて最初より中國國民經濟を支配操縱する地位に立つていた。従つて中國金融界及び財政當局は金融問題の改定刷新については、先ず外國系銀行の同意を求めるかまたはこれと共同動作を行ねばならず、すべてに立ち遅れた中國側銀行はその買辦的役割を果して來たのであるが、外國系銀行の特權と機能について見れば次の諸點を挙げ得る。

(1) 外國系銀行は中國側銀行に比し壓倒的雄厚な資本を擁しており、中國の金融制度、信用制度の未發達の際に乘じ當初より巨額の紙幣を發行流通せしめ、證券取引所の實權をも掌握して國內の財富を吸収したが、一方現銀の輸出

等の金融操作には政府の拘束を受けなかつた。また一九四二年夏英米華三國合作による爲替平衡基金設定以來中國側の銀行、錢莊は米英系銀行に多額の預金を持ち、または融資を仰ぐ等、國際金融資本は經濟的、政治的地盤と租界の特殊性に立脚して中國全般の金融統制を把握した。

(2) 中國の外債、借款、在華貿易または工業投資、大都市の不動産賣買及び各國在華保險業者または航運業者との諸取引等はすべて外國系銀行を経由して行われたため、中國物資の買占、販賣價格の操縱、外國商品の進出等を促進して、中國民族工業の發達を阻止し、農村の破産を招來させた。

(3) 外國系銀行は設立當初より中國の政治の紊亂による國內の不安に乗じて大量の中國人預金特に幾多大官、軍閥、官僚等の私財を吸収して來た。これにより各行の資金が豊富となればなるほど、中國側銀行の資力はいよいよ薄弱となり、その發達成長が阻碍された。

(4) 中國貿易の九割までがいずれも外國系銀行と取引をしている外國商館の手中にあるため、中國側銀行に對する依存度はなく、また外國系銀行はほとんど完全に中國の外國爲替業務を獨占していた。

(5) 外債引受並に賠償金の受入により中國の國家財政を牽制し、二十餘年にわたる關稅、鹽稅等の管理により利潤を壟斷した。

(6) 國內資金は在華外人の主要根據地である通商貿易港にのみ偏在し、外國系銀行はそのため中國側金融機關をして協同連絡機關として取扱うか、または商品の輿地流通機關として運用する等中國側金融機關を買辦的存在たらしめた。

しかしながら戰後の現在ではこれらの特權と機能とはほとんど止揚され、今や中央銀行がその法的權限では戰前の

滙豐銀行が有した地位以上の強力な指導権を掌握したのである。

今次大戦前の主要外國系銀行は次の通りであるが、太平洋戦争勃發により米、英、オランダ等の外國系銀行は日本側に接收清算され、その預金も横濱正金銀行に肩替りされた。

行名	總行所在地	創業年度	上海店舗開業年度	在華分支行所在地	資本金(閉鎖處理銀行)
(1) 英國系					
麥加利銀行 Chartered Bank of India, Australia & China	ロンドン	一八五三	一八五七	廣州、漢口、香港、北平、哈爾濱、上海、天津、青島	三、〇〇〇千英ポンド(三井)
滙豐銀行 Hongkong & Shanghai Banking Corporation	香港	一八六四	一八六七	廈門、廣州、芝罘、大連、福州、漢口、哈爾濱、九龍、瀋陽、北平、上海、天津、青島	五〇、〇〇〇千香港ドル(正金)
有利銀行 Mercantile Bank of India, Ltd.	ロンドン	一八九二	一九一五	香港、上海	三、〇〇〇千英ポンド(朝鮮)
大英銀行 P & O Banking Corporation	ロンドン	一九二〇	一九二二	香港、上海	五、〇〇〇千英ポンド(正金)
沙遜銀行 E. D. Sassoon Banking Company, Ltd.	香港	一九三〇	一九三〇	上海	一、〇〇〇千英ポンド(正金)
(2) 米 國 系					
花旗銀行 National City Bank of New York	ニューヨーク	一八一二	一九〇二	廣州、大連、漢口、哈爾濱、香港、北平、上海、天津	一二七、五〇〇千米ドル(三菱)
米國運通銀行 American Express Company, Inc.	ニューヨーク	一八四一	一九一七	香港、北平、天津、上海	六、〇〇〇千米ドル(正金)

國立國會圖書館 臺灣省圖書館

大通銀行 Chase Bank	ニューヨーク	一九二〇	一九二二	香港、上海、天津	五、〇〇〇千米ドル(住友)
友邦銀行 Underwriters Savings Bank for the Far East, Inc.	上海	一九三〇	一九三〇	香港	五〇〇千元(臺灣)
(3) フランス系銀行					
東方滙理銀行 Banque de L'Indochine	パリ	一八七五	一八九九	廣州、漢口、香港、北平、上海、天津、昆明	一二〇、〇〇〇千フラン
滙源銀行 Union Mobilere	上海	一九二二	一九二二	上海	一、〇〇〇千元
中法工商銀行(註①) Banque Franco-Chinoise Pour Le Commerce et L'Industrie	パリ	一九二二	一九二二	香港、北平、天津、上海	五〇、〇〇〇千フラン
(4) ドイツ系					
德華銀行 Deutsche Asiatische Bank	上海	一八八九	一八八九	廣州、漢口、北平、天津、青島	六、四四〇千元
(5) ベルギー系					
華比銀行 Banque Belge Pour L'Etranger, S. A.	ブラッセル	一九〇二	一九〇二	漢口、上海、天津	三、〇〇〇千ベルギーフラン(正金)
義品放款銀行(註②) Credit Foncier D'Extreme-Orient	ブラッセル	一九二二	一九二二	上海、天津、漢口、香港、北平	七〇、〇〇〇千フランスフラン
(6) イタリア系					
華義銀行(註③) Itarian Bank for China	上海	一九二〇	一九二〇	天津	一、〇〇〇千米ドル

(7) オランダ系

荷蘭銀行 Nederlandsche Handel Maatschappij, N. V.	アムステルダム	一八二四	一九二〇	上	海	三五、〇三〇千オランダギルダー(臺灣) (拂込資本金)
安達銀行 Nederlandsche Indische Handels Bank, N. V.	アムステルダム	一八六三	一九二〇	香港、廣州、廈門、上海		九九、〇〇〇千オランダギルダー(臺灣)

(8) ソ連系

莫斯科國民銀行 Moscow Narodny Bank Ltd.	ロンドン	一九一九	一九三四	上	海	一、七五〇千英ポンド
-------------------------------------	------	------	------	---	---	------------

(9) 日本系

横濱正金銀行 Yokohama Specie Bank	横濱	一八八〇	一八九三	廣州、長春、芝罘、大連、漢口、哈爾濱、香港、開原、瀋陽、牛莊、北平、上海、天津、青島		一〇〇、〇〇〇千圓
臺灣銀行 Bank of Taiwan Ltd.	臺	北 一八九九	一九一一	廈門、福州、漢口、香港、上海、汕頭		一五、〇〇〇千圓
朝鮮銀行 Bank of Chosen	京	城 一九一一	一九一八	安東、長春、大連、萬家店、哈爾濱、龍清、瀋陽、開原、上海、遼陽、鐵嶺、天津、青島、營口		四〇、〇〇〇千圓
住友銀行 Sumitomo Bank, Ltd.	大	阪 一八九五	一九一六	上	海	七〇、〇〇〇千圓
三菱銀行 Mitsubishi Bank, Ltd.	東	京 一八九五	一九一七	上	海	一〇〇、〇〇〇千圓

三井銀行 Mitsui Bank, Ltd.	東	京 一六八三	一九一七	上海、大連		一〇〇、〇〇〇千圓
上海銀行 Shanghai Bank, Ltd.	上	海 一九一八	一九一八	—		一〇〇千圓
漢口銀行 Hankow Bank, Ltd.	漢	口 一九二〇	一九三〇	上	海	一、〇〇〇千圓

(註)(1) 中法工商銀行はフランス、中國合辦銀行である。
 (2) 義品放款銀行はベルギー、フランス合辦銀行である。
 (3) 華義銀行はもと中國人の株主を擁していたが、一九二四年すべてイタリア人所有となつた。終戦後國民政府から復業を許可されたが、本國々情の悪化のため開業を延期している。

日本により閉鎖されていた諸行は戦後數カ月經過して始めて再開したのであるが、英國系大英銀行は復歸せず、フランス系滙源銀行は清算を行つた。敗戦國であるドイツ系德華銀行及びかつては他國資本を凌駕して活躍した日本系横濱正金、臺灣、朝鮮等の諸行は姿を消し、これら敵産銀行は現在國民政府に接收され強制清算の過程にある。なお戦時中から繼續して營業を営んでいるのはソ連系莫斯科國民銀行(註)及びフランス系二銀行のみで、イタリア系及びドイツ系銀行も祖國の對連合軍降伏と同時に日本に接收されたのであつた。

(註) 莫斯科國民銀行の前身は一九二三年ロシアが哈爾濱に組織した遠東銀行(Far Eastern Bank of Harbin)であつて、一九二七年ロシアと中國との國交斷絶により停業整理したが、一九二八年再開し、一九三四年ロシア人が英國で經營している莫斯科國民銀行に合併改組され、普通商業銀行業務と外國貿易とを經營していた。現在はソ連國立銀行の特別外國支店となつてゐるようであるがその業務は小範圍である。

外國系銀行の中國特に上海における勢力は戦前は英國系銀行が最大で、米國がこれに次ぎ、以下日本、フランス、ドイツ、イタリア、ベルギー、オランダの順となつていたのであるが、戦後はその勢力關係が變動しつつあることは

注目に値するところである。すなわち戦前最大の鑛工業並に交通投資によりまた中國通貨に對するポンドの壓力を背景として、上海市場に強大な操縦力を有していた英國系銀行の王座を米國系銀行が襲つたことである。この米國系銀行が在華外國系銀行中最大の重要性を有している理由としては次のようなものが挙げられる。

- (1) 中國においては對米貿易が壓倒的な割合を占めていること。例えば一九四七年度における中國對外貿易總額では米國が輸入の二分の一強、輸出の四分の一を占めている。
- (2) 國民政府並に資本家は自國經濟の再建、復興及び將來の發展につき物質的援助を米國に對して他國以上に要求していること。

(3) 米ドルは中國における最も重要な外國爲替手段であること。

(4) 米國には多量の中國逃避資本が存在すること。

(5) 中國では外貨流通禁止の措置がとられるまで米國連邦準備券が約五千萬米ドル位流通していたこと。

英國系銀行の重要性は米國に次ぎ第二位にある。英國の對華地位が戦前に比して著しく後退した理由は大體次の通りである。

- (1) 中國のロンドンにおける逃避資本が著しく少額であること。
 - (2) ポンドによる貿易金融はドルによるその四分の一以下であること。
 - (3) 英國の對華借款は戦後全然行われなかつた上、今後も當分希望が持てないこと。
 - (4) 中國には戦後全然ポンド貨が流通していなかつたこと。
- しかしながらそれにも拘わらず英國系在華銀行は次の點で質的にも、量的にもその重要性が認められている。

(1) 英國の對華投資額は戦時中中國に與えられた借款を除き米國のそれに比し六、七倍大であること。

(2) 在華英國系銀行は老舗として確固たる信用を買われていること。例えば米國系銀行が戦時中「大後方」に何ら支店を開設しなかつたのに反して、英國系滙豐、麥加利兩行は一九四二年十二月重慶に支行を設置し、戦時中損失を厭わず維持して來たのである。また滙豐銀行は香港政廳の財政的援助の下に戦時中の日本統治機關發行通貨の整理に全責任を負つたことにより中國人に多大の恩恵を與えたこと等である。

しかしながら一般外國系各銀行は最早昔日のように統一戦線を張つていないのである。例えば戦前滙豐銀行を通じて行つていた銀行間の決済とかまたは戦前上海實業界において最も優位にあつた外國爲替銀行公會の復活等を圖ろうともしない。従つて外國系銀行は個別的に行動し、中國側上海銀行業同業公會に加入している。一九四六年の初頭においても外國系銀行は往時のように中央銀行の好まぬ爲替信用狀を顧客に發行することも實施しなければ、當時中國銀行の業務であつた輸出形の手取にも手を出していないのである。また一九四六年三月四日公布の「外國爲替取引暫行辦法」により中央銀行は唯一の外國爲替取扱銀行となり、その他の銀行は中央銀行の「指定」を受けて始めてその代行をすることができるのであるが、その統制は嚴格であつて非協力の銀行はその指定を取消されるのであり、新外國爲替相場及び割當制度に對しても全外國系銀行が異議なく服従したのである。

現在尠くとも外國系銀行の法的地位に關する限り中國側商業銀行と何ら異なるところはないのであるが、これは一九四三年一月の中米並に中英間新關係條約の締結により、從來治外法權並に在華外人及び外人商社が享受した不平等條約上、慣習上の各種特權の廢棄に伴い、中國經濟の對外的地位が著しく向上したことに基因しているのである。このような外國系銀行の支配權脱落に併行して中央銀行の中國金融界における統制力は漸次強化して來たのである。

外國系銀行は戦前の状態が現存するならば當然華商銀行を制壓して從屬的地位に降すことができたであろうが、戦後の新條約の締結及び新「銀行法」の公布によつても何ら期待するような保障は得られなかつた。外國系銀行は海外資金の一部をすら使用することができぬ上、法幣預金を外國爲替に投資したり、中國の顧客に對し自由爲替相場で營業することをしないが、中國側銀行よりも低利率を課すことで概して大衆に期待されている。外國爲替の分野では外國系銀行の地位は主導的華商銀行の地位よりもよくない。

五、結

論

長期にわたる日華の衝突は一九四五年八月中國の勝利をもつて終結した。この間中國は中國經濟の桎梏となつた各國との不平等條約をも廢棄してその半植民地的、隸屬的地位を脱却し、表面的には完全な一獨立國家として發足することとなつた。これは中國人の營々たる努力の結果であり、この變貌が中國の各方面に及ぼした影響は甚大なものもあつた。特に金融面に與えた多數の變化の中最も顯著なものを挙げれば次の通りである。

- (1) 中央銀行が中國金融機構の王座に位置し、戦前中國金融活動を支配した外國系諸銀行がその地位を轉落して一般華商銀行と同一待遇にあること。
- (2) 新式華商銀行がその基幹的地位を占め、戰爭による地域的割據性の一掃により、その地緣的、派閥的結合と地方的活動を超えて浙江閩を中心とした全國的規模の結合を示していること。
- (3) 外國爲替市場が完全な自由市場から著しく統制を加えられたこと。

- (4) 證券市場の指導的地位が外商株から華商株に移行したこと。

このような外國系銀行の轉落に基因する中央銀行の優位性、新式華商銀行の向上等の事實から見て、中國が外國系銀行を排除し、自國資本銀行のみによつて前途多難な今後の中國經濟建設を遂行し、近代的金融制度下における同様の活動を營み得るとするのは早計である。諸外國の期待する對華經濟活動はまだ正常化していないが、中國がその經濟的再建復興と將來の發展とに外資を必要とすることは自明であり、その實現化と共に外國系銀行の地位も再び急激に向上して行くのは確實である。このためにこそ各外國系銀行、特に米國系大銀行は率先して一般華商銀行と同一待遇に置かれることを無條件に甘受して再開したのである。更に變則的、畸形的進路を開拓した中國側金融機構が漸次矯正強化されつつあることは事實であるとしても、戦前からの傳統的な買辦的、隸屬的性格の羈絆は依然として斷ち得ないのである。すなわち從來中國經濟の最も明確な封建的、後進的表現は實に金融に見ることができたのであつて、その缺陷としては次のようなものがあげられる。

- (1) 中國は經濟的未發達の時代から資本雄厚な外國系銀行が相率いて進出したために、立遅れた華商銀行の發展は阻礙され、徒らに外國系銀行に依存する買辦的性格における畸形的繁榮をのみ享受し、また錢莊のような中國特有の舊式金融機關が存続したのであつて、今日といえども華商銀行の資本は外國系銀行と比較して遙かに遜色があるものである。

- (2) 中國の銀行系統には分業的名稱が存在するにも拘わらず、實效は舉らずその大半が商業儲蓄銀行的性格を帯び(儲蓄部を附設している銀行も尠くない)、時代の要請が金融業の公共性を主張しているとき、軍閥、官僚、地主等の一部有資産階級の個人的または組合的機構の弱小銀行が濫立し、その融資も生産投資より逸脱し、高利貸付を對象と

しまた國積居奇（買占投機）に集中しているものであり、甚だしきに至つては國家銀行の信用貸付が生産者に與えられずして、寧ろ投機者にのみ寄與しているとの噂すらあるのである。

(3) 國家銀行が多分に一般民間銀行の性格を具有し、その特殊使命をなお十分發揮しないと同時に、金利その他の營業方針が自然民間華商銀行の立場を甚だ困難な境遇に陥れていること。

(4) 華商銀行の貪欲性、無節操は常に時の政黨、軍閥と結託し、貪官汚吏の跳梁となり、巨利を私しているのである。その事例は枚擧に暇がないが、戰爭中における奥地移住を遂行せず、また提携合作による國民經濟の擁護にも當らず、自ら金融國策を破壊した過去を採り上げずとも、一九四七年三月中央銀行經理、同副經理、上海銀錢業公會々長等が中央銀行の黄金政策を繞る腐敗行爲の嫌疑で逮捕されているのである。

(5) 高騰するインフレーションの下にあつて多額の遊資は戰區地帯から上海、香港へ、更には外國へと逃避しているものであり、國內預金は不調であるが、これとても浮動常ならぬ華商銀行を敬遠して、信用厚い外國系銀行へ集中する傾向にあるのである。最近においては外國系銀行の法幣建預金の申告制をとつたが成績は舉つていない様子である。またインフレーションによる減價補償のため戰前の銀行預金は二千五百倍、一九四七年七月以降の預金は千倍で拂戻す現狀である。

(6) 中國の金融統計資料の缺乏と不完全に加えて、各華商銀行の營業報告書等は杜撰であり、特に科目名稱を胡塗して純益につき多額の工作を施す傾向が多いこと。

(7) 一八九六年から一九三六年までに設立された銀行は合計三七九の多きに達するが、その内約五六%に及ぶ二一三が累々として倒閉しているのであつて、銀行機構の不健全、組織系統の紊亂、基礎の薄弱、信用の不厚等は今後の

強靱な銀行制度の確立上問題となるのである。

(8) 公私銀行の分布が少數の主要商業都市に偏在して、系統立つた金融網が不備のために地方産業は開發されない。銀行數は江蘇省のみで全體の三分の一を占め、その他浙江、河北、四川の三省を加えれば全體の約六〇%に及ぶのであるが、その人口は三〇%に過ぎない。以上の四省においても特に上海、杭州二市に雲集すると共に揚子江沿岸地區に集中する等の畸形現象がある。

(9) 經濟は疲弊し、金融が停滞しているとき銀行資力も極めて薄弱で、經營規模も多くは狭小に過ぎ、小行林立するも、大行は數えるほどよらない。特に一九四〇年一月「縣銀行法」公布後は小銀行はいよいよ激増し、小行は全國銀行中その六五%を占め、各地に分散し、しかも相互に連繫なく、金融を調整する能力を發揮することはできない。(10) 銀行業の興隆は政治の需要に起因するところが大きい。戰前においても時局の推移に伴い政府が發行する各種公債の大部分は銀行引受けによつたが、その年利が高率のため常に歡迎され、公債濫發期にはこれに促進されて新銀行も蓬生した。戰時中の政府發行内國國債は十二種で、發行額は法幣六、八三〇百萬元、關金一億單位、英貨二千萬ポンド、米貨二億ドルであつたが、少數の一般公募を除き大部分は豫約券方式で銀行が引受け、財政、金融の相互關係の密接化が行われた。この關連から見れば戰後金融が正道を進もうとしても目下の財政狀況では期待薄と思われる。

右のような中國金融機關の現状の放置が通貨の不安定、物價の激騰を招來して中國經濟を破滅の淵に陥れることは明白であるから、金融運營の改善が緊急事とされているのであつて、(1)金融業の國營、(2)利潤の引下げ、(3)金融業者の覺醒奮起による封建性の脱却、(4)大衆の信頼恢復によつて得た預金をもつてする國家必需部門への低利確實な融

資、因金本位制採用準備等のため迅速な幣制政策等が官民間に高唱されている。

政府は戦後の銀行制度の健全な発展を圖り、且つその法規を整備するために新「銀行法」(註) 十章百十九條を上程したが、一九四七年四月二十四日立法院を通過し、九月一日に公布された。これにより一般銀行につき明確なる定義を下すと共に、商業、實業、儲蓄各銀行、信託會社、錢莊及び外國銀行等の機能につき規定したのである。この法令はその表面は專業主義を強調しているが、依然として兼業主義の繼續を認めているようである。また一九四七年二月公布の經濟緊急措置方案並に同年八月公布の經濟改革方案等においても過去の發展に固執して現状の金融機構を支持しているが、これに對する一般世論は必ずしも賛意を表していない。

なお新「銀行法」の公布により政府は次の諸點を考慮している。

- (1) 公布後はあらゆる過去の不適切な管理銀行法令に検討を加えこれを改廢する。
- (2) 新設銀行並に現存銀行にして條件の適合せぬものは合併その他の強化策を圖る。
- (3) 「銀行法」に規定した金融業務検査處理方法について考究する。

このように政府は現在の國內の政治經濟情勢と金融機構の趨勢から漸次銀行制度を簡易化の方向に進めようとしており、今後の新設銀行は相當嚴格な審査を行うと共に分支行の設立も地區、資本、既設數等により制限を加えている。

(註) かつて一九三一年三月三十日に國民政府は「銀行法」五十一條を公布した。この法規によつて(イ)預金及び貸付、(ロ)手形割引、(ハ)爲替或は荷爲替の項目の一を經營するものは錢莊等のように銀行と呼稱しないものも銀行と看做され、本法規定により處理されることとなつた。しかし資本金に關する規定等について當業者の激烈な反對に遭い遂に實施に至らなかつた。

また一九三四年七月四日に公布された「儲蓄銀行法」十七條は新「銀行法」の公布により廢止された。同法については

當時その儲蓄總額の四分の一に相當する資産を中央銀行に保管して預金償還の擔保とする規定が問題となつたが、民間の盛んな反對を押し切つて實施されたものである。

差當り政府は農工生産の増加を主要目的とする金融機關の專業化並に小數都市偏在の是正による系統ある全國的金融網の確立を企圖して、次のように金融組織別業務の改革を實施しようとしている。

(1) 國家銀行

各國家銀行はその性質により專業化を實行し、同一性質の普通銀行の業務に對し輔導の任務を負う。その分支行設置の範圍と地點はその業務對象によりそれぞれ規定する。

(イ) 中央銀行

同行は銀行の銀行であり、全國の金融を統制して金融と經濟とを密接に連繫させ、經濟建設の完成を圖ることを主要任務とする。また一般商業銀行に對する監督は今後比較的緩和されるものの、一般銀行の預金準備金は當然保管を繼續し、貸出検査も相當期間繼續する。個人との直接取引等の一般商業銀行との業務上の競合については回避する。中央銀行は豫て米國連邦準備制度に倣う分區制の實行を考慮中である。

(ロ) 中國銀行

同行は内外の貿易發展に協力援助することをその專業の範圍とし、内外貿易及び生産事業に關係ある貸付、荷爲替及び外國爲替送金等の業務を經營する。

(ハ) 交通銀行

同行は實業の發展を協力援助することをもつてその專業の範圍とし、鑛工業、交通及び公共事業等の貸付を經

營する。

(二) 中國農民銀行

同行は農村の繁榮を扶助することをもつてその專業の範圍とし、農業生産、耕田水利、農産物の運輸、販賣及び土地金融等の貸付を行い、農民の利便を圖る。

(三) 四行連合辦事處總處

同總處は復歸完成を俟つて、計畫と連繫との機構に改組するか、或は財政部錢幣司と合併して金融管理局に發展させ、財政部に隸屬させるかを決定する。

(四) 中央信託局

同局は信託、再保險及び公營事業の保險の專業並に民營信託保險業務に對する輔導の任務を負う。

(五) 郵政儲金滙業局

同局は人民の貯蓄預金を吸收し、小額の爲替送金の取扱をその專業の範圍とする。且つ合作金庫と協力すべき原則に基き、これを農村に利用し、農村經濟を發展させる。

(六) 中央合作金庫

同金庫は生産、運輸等の合作貸付を經營し、各種合作社組織の扶植及び發展を專業の範圍とする。

(七) 省 銀 行

同行は各自省内の金融を統制し、經濟建設を援助し、省内の生産事業を開發することをその主要業務とする。

同行は總行をそれぞれ省政府の所在地に設置し、その分行の設置地點は各省の重要なる政治經濟の中心地に限定

する。

(八) 縣 銀 行

同行は中國金融制度の基礎機構であり、これを徹底的に再建すると共にその發展を扶助しなければならない。この主要業務は農村經濟を發展させ、地方建設の促進と地方自治の遂行とを圖るにある。故にその設置は一縣一行を原則とする。その資金は縣政府が縣鄉鎮の公金で投資する外、民間公募をも行うが、同時に中央銀行及び省銀行も適當に投資すると共に、専門人材の供給等業務上の輔導と監督とに當らせる。同行には業務上の類別及び需要の相違によつて中國農民銀行、交通銀行または中國銀行がそれぞれ協力援助を與えるものとする。

(九) 土 地 金 融

土地金融については長期金融の性質に屬するから政府が特別資金を指定し、同時に土地債券を發行するが、適當の時期に至つたならば別に専門銀行を設立し、その業務を擔當させる。過渡期にあつては、中國農民銀行の土地金融資金を充實し、縣銀行に融資して業務を營む。

(十) 民 間 銀 行

各民間銀行の分類及び分布は政府がこれを規定し、その資本額標準を引上げ、各小銀行、錢莊等は組織の合併を行つて資力を充實させ、その資金の運用は政府がその標準を規定し、嚴格に管理する。

(十一) 外國系銀行

外國系銀行は當然中國で營業を繼續し得るが中國の法律を遵守し中央銀行の監督下にあるのであつて、何ら特權は所有しない。また外國爲替の賣買も中央銀行の統制下に行われる。

回 商業銀行

商業銀行の本来の使命は商工業の発展の援助にあり、投機の発生を防止し、信用貸付にも相當制限を加える必要があるが、内國爲替並に手形割引等は今後の主要業務である。なお投資會社と銀行とは分離されなければならぬ。

(ハ) 錢莊

錢莊は今後主として農業社會の補助銀行機構とするか、國家銀行及び商業銀行の各地支店に代位される運命にある。しかし目下の特殊環境では地方金融が普遍的でなく、また短期間の實施は不能であるから、當分はその存在も必要視されるが、銀行の集中している沿海都市においてはその新設は困難である。その業務にも嚴重な規定を課し、過去の小銀行の流弊に鑑み各錢莊、小銀行の組織を合併し、資力の充實を圖ることとする。

なお一九四七年三月立法院六十三委員によつて建議された「國營の四行二局一庫を統合して二機構とし、人力財力の節約、信用の強化、業務の刷新を圖るの件」は、同年十月同院經濟委員會で審議の結果、暫くその討議を見合わせることに決定したが、提案者はあくまでもその實現を期している模様である。

いま全國の金融機關の分布狀況についてみれば次の通りである。

全國各省市別金融機構分類統計

(一九四七年六月末、中央銀行稽核處調)

省市名	總計		國營		省營		縣市營		商業		銀號		錢莊		信託會社		保險會社		合作金庫	
	總計	分支	本店	支店	本店	支店	本店	支店	本店	支店	本店	支店	本店	支店	本店	支店	本店	支店	本店	支店
南京	107	7	3	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
上海	393	112	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
北平	116	5	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
天津	335	109	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
重慶	143	74	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
廣州	147	95	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
漢口	150	67	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
成都	82	28	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
昆明	55	19	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
貴陽	26	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
西安	97	6	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
蘭州	33	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
江蘇	264	62	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
浙江	444	202	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
安徽	219	35	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
江西	188	44	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
湖北	212	53	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
湖南	183	33	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
四川	641	254	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
西康	44	13	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	3937	1277	3	4	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

省	總計	臺灣	滿州	新疆	綏遠	察哈爾	熱河	寧夏	青海	甘肅	陝西	山西	山東	河南	河北	貴州	雲南	廣西	廣東	福建
總計	5,255,200,365	5,255,200,365	5,255,200,365	5,255,200,365	5,255,200,365	5,255,200,365	5,255,200,365	5,255,200,365	5,255,200,365	5,255,200,365	5,255,200,365	5,255,200,365	5,255,200,365	5,255,200,365	5,255,200,365	5,255,200,365	5,255,200,365	5,255,200,365	5,255,200,365	5,255,200,365

(註) 分支行、辦事處の別なく一單位として計算した

上海金融機構資産總額及び預金並に貸付

(單位十億元)

項目	總數	%	總數	%	總數	%	總數	%
華商銀行	176	62	1,434	62	481	67	438	65
外國系銀行	13	5	539	24	88	12	86	12
錢莊	82	28	244	11	121	17	129	19
信託會社	13	5	77	3	23	3	24	4
計	284	100	2,295	100	714	100	677	100

(一九四七年六月現在、中央銀行稽核處調)

要するに中國の金融制度は他の文化諸國家に見られるような完成した基礎の下にはなく、まだ發展過程にあるのであつて、今後相當期間にわたり迂餘曲折の路を辿ることは豫想に難くないところである。ななわち戦争という長期にわたる建設障害は排除され、不平等條約の廢棄によりその半植民地的、隸屬的地位は脱却し得たものの、依然として公共的色彩は稀薄であり、投機を對象とする個人的利殖に終始し、大衆の信頼を喪失して封建的、後進的性格を多分に帯有しているのである。この際中國金融運營の如何が中國經濟の盛衰に懸ることは明白である。従つて大國としての經濟實力確保に努力しつつある戦後の新中國は今後金融政策の上に如何なる統制改革手段を講じ完成機構に近接して行くであろうか。われわれは多大の關心と期待をもつてその前途を注視するものである。(肥田)

主要參考資料

John Ahlers Postwar Banking in Shanghai (Pacific Affairs, Dec. 1946)

寒 芷 主 編 戰後上海的金融 (一九四一年)

中國金融年鑑社 中國戰後經濟志 (一九四一年)

吳 承 禧 中國 的 銀 行 (一九三四年)

中國銀行總管理處 全國 銀 行 年 鑑 (一九三五年)

滿洲中央銀行調查課 最近の支那金融財政資料 (一九三九年)

德 永 清 行 支那中央銀行論 (昭和十七年)

宮 下 忠 雄 支那銀行制度論 (昭和十六年)

宮 下 忠 雄 支那戰時通貨問題一斑 (昭和十八年)

同盟通信社南支總局 重慶抗戰經濟資料 (昭和十八年)

東 亞 研 究 會 最新支那要覽 (昭和十二年度版)

中 央 公 論 社 支那問題辭典 (昭和十七年)

日本銀行調查局 在支各國銀行 (大正十五年)

日本銀行調查局 海外經濟彙報 (昭和十一年—昭和十二年)

日本銀行調查局 東亞經濟事情 (昭和十四年—昭和十七年)

その他戦後の中國各種新聞雜誌によるところが少くない。

(附 錄)

戰後の上海銀行業一覽

(一九四六年十一月現在 浙江興業銀行設計處調)

行 名	創 業 年 月	資 本 額	行 名	創 業 年 月	資 本 額
華 商 銀 行			江 蘇 省 銀 行	一 九 二 一 年 一 月	一 〇 〇 〇 萬 元
中 央 銀 行	一 九 二 八 年 一 月	一 〇 〇 〇 萬 元	浙 江 興 業 銀 行	一 九 〇 七 年	一 〇 〇 〇 萬 元
中 國 銀 行	一 九 一 二 年 二 月	六 〇 〇 萬 元	浙 江 實 業 銀 行	一 九 〇 八 年	一 〇 〇 〇 萬 元
交 通 銀 行	一 九 四 五 年 一 〇 月 復 業 一 九 〇 七 年 一 月	六 〇 〇 萬 元	上 海 商 業 儲 蓄 銀 行	一 九 一 五 年 六 月	一 〇 〇 〇 萬 元
中 國 農 民 銀 行	一 九 四 五 年 一 〇 月 復 業 一 九 三 三 年 四 月	六 〇 〇 萬 元	鹽 業 銀 行	一 九 一 五 年 三 月	一 〇 〇 〇 萬 元
中 央 信 託 局	一 九 三 五 年 一 〇 月	五 〇 〇 萬 元	四 行 儲 蓄 會	一 九 二 三 年 六 月	一 〇 〇 〇 萬 元
郵 政 儲 金 匯 業 局	一 九 三 〇 年 三 月	(郵 政 擔 保)	金 城 銀 行	一 九 一 七 年 五 月	一 〇 〇 〇 萬 元
上 海 市 銀 行	一 九 三 〇 年 二 月	一 〇 〇 〇 萬 元	新 華 信 託 儲 蓄 銀 行	一 九 一 四 年 一 〇 月	一 〇 〇 〇 萬 元
中 國 通 商 銀 行	一 八 九 七 年 七 月	四 〇 〇 萬 元	東 萊 銀 行	一 九 二 三 年 一 月	三 〇 〇 〇 萬 元
中 國 實 業 銀 行	一 九 一 九 年 四 月	四 〇 〇 萬 元	大 陸 銀 行	一 九 一 九 年 四 月	一 〇 〇 〇 萬 元
四 明 商 業 儲 蓄 銀 行	一 九 〇 八 年 八 月	八 〇 〇 萬 元	永 亨 銀 行	一 九 一 八 年 一 月	一 〇 〇 〇 萬 元
中 國 國 貨 銀 行	一 九 二 九 年 一 月	五 〇 〇 萬 元	中 南 銀 行	一 九 二 一 年 六 月	七 〇 〇 〇 萬 元
			中 國 華 銀 行	一 九 二 八 年 一 月	二 〇 〇 〇 萬 元
			中 國 壘 業 銀 行	一 九 二 九 年 六 月	一 〇 〇 〇 萬 元

謙泰豫興業銀行	一九四四·三	(一〇〇)
大同銀行	(一九四二·一二)	(一一〇)
山西裕華銀行	一九一四·	二〇
大同商業銀行	一九四二·三	四〇
同心銀行	(一九四六·一〇)	三〇
兩浙商業銀行	(一九四六·一〇)	三〇
鴻興銀行	(一九四六·四)	二〇
億中企業銀公司	一九三五·三	五〇
中國僑民銀公司	一九四三·一	〇〇
成大銀號	一九四一·一	〇〇
源源長銀號	一九四三·七	〇〇
雲南鑛業銀行	(一九四六·一一)	〇〇
廣新銀業公司	一九四一·一〇	一五
益垂商業銀行	(一九四六·一〇)	〇〇
同孚商業儲蓄銀行	一九四一·三	〇〇
怡豐銀行	一九四一·一二	〇〇
謙泰商業銀行	一九四一·一	〇〇
和泰商業銀行	一九四一·三	一五
統原銀行	一九三二·八	〇〇
上海鐵業銀行	一九四一·八	〇〇
大來商業儲蓄銀行	一九三〇·九	三〇
國信銀行	一九三五·三	七

上海亞西實業銀行	一九四〇·一	一五〇
辛泰銀行	一九三三·八	〇〇
川鹽銀行	一九三六·四	〇〇
泰和興銀行	一九四〇·一	一五〇
中庸商業銀行	一九四一·二	六〇
永泰銀行	一九三三·二	六〇
民孚銀行	一九三三·九	一
江海銀行	一九四一·一	五〇
國孚銀行	一九四一·一	五〇
茂華銀行	一九四一·一	五〇
廣東銀行	一九一七·	四〇(星幣)
華僑銀行	一九一七·	(七·五)
東亞銀行	一九一八·一一	(一〇)港幣
中興銀行	一九二〇·	(二〇)
復興實業銀行	一九三九·一二	(七·五)
長江實業銀行	(一九四六·三)	三〇
中國工礦銀行	一九四三·九	三〇
光裕銀行	一九四〇·九	六〇
巴川銀行	一九四〇·一一	七〇
建國銀行	(一九四六·三)	〇〇
通惠實業銀行	(一九四六·四)	〇〇
四川農工銀行		八五

中國農工銀行	一九一八·一二	一〇〇
聚興誠銀行	一九一三·一	一〇〇
中匯銀行	一九二九·三	三五〇
中華勸業銀行	一九三一·一〇	三〇〇
中國企業銀行	一九三一·一一	一〇〇
上海鋼業銀行	一九三一·九	五〇
女子商業儲蓄銀行	一九二三·五	一〇〇
中華商業儲蓄銀行	一九一〇·一一	五〇
永大銀行	一九四五·六	五〇
四川美豐銀行	一九二二·	二〇
江蘇省農民銀行	一九二八·七	四〇
浦東商業儲蓄銀行	一九二八·三	一五〇
川康平民商業銀行	一九三七·九	五〇
農商銀行	一九三四·八	三〇
正明銀行	一九三四·三	一〇〇
上海煤業銀行	一九二一·七	一〇〇
恒利銀行	一九二八·四	一〇〇
惠中商業儲蓄銀行	一九三三·一〇	〇〇
停敘銀行	一九三一·九	五〇
至中商業儲蓄銀行	一九三三·一〇	一五
中和銀行	一九三一·七	一〇〇
和成銀行	一九三七·五	二〇
亞洲銀行	一九三四·六	〇〇

浙江建業銀行	一九三三·五	一五
光華銀行	一九三四·五	三五
建華銀行	一九三四·一〇	二〇
大康銀行	一九三九·八	一〇
大中銀行	一九一九·三	四〇
重慶銀行	一九三〇·八	一〇
大公商業儲蓄銀行	一九四一·一一	一〇〇
中興銀行	一九四一·九	一〇〇
光中商業銀行	一九四一·八	一五〇
華懋商業銀行	一九四二·二	一五〇
嘉定銀行	一九四三·五	三〇
永成銀行	一九四一·一一	三〇
開源銀行	(一九四六·五)	六〇(臺幣)
臺灣銀行	一九二二·一一	五〇
上海國民銀行	(一九四二·七)	一〇〇
雲南實業銀行	(一九四六·六)	一〇〇
建業銀行	(一九四六·六)	五〇
四川建設銀行	(一九四六·六)	二〇
昆明商業銀行	一九二一·三	三〇
松江商業銀行	(一九四六·七)	一〇〇
成都商業銀行	(一九四六·七)	一〇〇
大裕銀行	(一九四六·七)	一〇〇
興文銀行	(一九四六·七)	一六〇

33/29-14

昭和二十三年三月發行(調外特第三號)

中國の金融制度

(各國金融制度調査その四)

非賣品

編集者 山田 精一
 發行者 日本銀行
 東京都中央区日本橋本石町二ノ二ノ一
 日本銀行調査局長

發行所 日本銀行
 東京都中央区日本橋本石町二ノ二ノ一
 電話日本橋二二一〇

2500

振業銀行 一九四一・一二・一〇〇

外國銀行

花旗銀行 一八二二、ニューヨーク 七七・五
 百萬元ドル

匯豐銀行 一八六四 香港 二〇百萬元
 (港幣)

麥加利銀行 一八五三 ロンドン 三百萬ポンド
 (一〇百萬元)

友邦銀行 一九三〇 上海 〇・五百萬米ドル
 (一〇百萬元)

有利銀行 一八九二 ロンドン 二・〇五
 百萬ポンド

八六

華比銀行 一九〇二
 ブラッセル 三〇
 百萬フラン

荷蘭銀行 一八二四
 アムステルダム 四〇・三
 百萬ギルダー

安達銀行 一八六三
 アムステルダム 三三
 百萬ギルダー

中法工商銀行 一九二三
 パリ 五三
 百萬フラン

大通銀行 一九二〇
 ニュヨーク 五百萬米ドル
 (七百萬元)

東方匯理銀行 一八七五
 パリ 一五七百萬フラン
 (四百萬元)

(註) () 内はすべて上海店舗に關するものである。

0022

振業銀行 一九四一・一二・一〇〇

外國銀行

花旗銀行 一八一二、ニューヨーク 七七・五
百萬米ドル

匯豐銀行 一八六四 香港 二〇百萬元
(港幣)

麥加利銀行 一八五三 ロンドン 三百萬ポンド
(一〇百萬元)

友邦銀行 一九三〇 上海 〇・五百萬米ドル
(一〇百萬元)

有利銀行 一八九二 ロンドン 二・〇五
百萬ポンド

華比銀行 一九〇二 プラツセ 三〇
百萬フラン

荷蘭銀行 一八二四 アムステルダム 四〇・三
百萬ギルダ

安達銀行 一八六三 アムステルダム 三三
百萬ギルダ

中法工商銀行 一九二三 パリ 五三
百萬フラン

大通銀行 一九二〇 ニューヨーク 五百萬米ドル
(七百萬元)

東方匯理銀行 一八七五 パリ 一五七百萬フラン
(四百萬元)

(註) () 内はすべて上海店舗に關するものである。

昭和二十三年三月發行(調外特第三號)

中國の金融制度

(各國金融制度調査その四)

非賣品

東京都中央區日本橋本石町二ノ二ノ一

日本銀行調査局長

發行者

山田精一

編集者

東京都中央區日本橋本石町二ノ二ノ一

日本銀行

發行所

山田精一

東京都中央區日本橋本石町二ノ二ノ一

日本銀行

發行所

電話日本橋二二一〇

33-28-14

